に十に八九は懸直を云はざる店は少あく此方も亦た之を直切らねばならぬ面倒ありて甚だ不便を覺へたり

又此外ゝ日本の劣れりと思ふは手代子僧の働きの甚だノロ〳〵として鈍き一事あり彼地ゝ在る時は彼地の店の子僧手代抔の働きを左程に手早きとも思はざりしが我國ゝ歸り買物を爲すゝ及びて始めて其悠々緩々たるゝ驚き入りたり例せば賣渡せし品物を客人の爲めに包むかこうるとか云ふ手間ゝても又金の勘定を爲す一段ゝても日本人の方は誠ゝノロ〳〵として捗取らぬやうゝ見ゆると少あからぬ既ゝ舶來品を鬻ぎ東京ゝて二三と云はるゝ大店ゝ至りてすらも其取扱の悠長あるゝは驚きたり今少し何とか手早くハキ〳〵と働いて貰ひたく思ふあり

(十)問　子守女の事ゝ付彼地と日本との相違せる趣ゝ向きゝ承まはりたる次第ゝては其他の事に付ても同樣の著るしき相違多かるべし如何

(二)答　早く申さば日本にては子守女が子供を連れ行くゝすら一切道具を用ひずして之を背負い居ると恰も太洋洲の蠻族の如くあるゝ英國ゝては早や道具の世界となり居れば之を抱たき行るく者あく下等の貧民ゝ至るまで粗末ながらも車を用ひ之に打載せて行るき居るあり此の一事あても既ゝ明かゝ西洋は道具の世界とあり居り日本は未だ身躰手業の世界を離れざることを推察するゝ足るべし身躰の世界より道具の世界ゝ遷らざる間は如何ゝよりもむも所詮無駄あり東洋より西洋ゝ赴きて第一に目立つ所の双方の相違は一方は道具の世界ゝて一方は身躰の世界あるの一事より著るしきはあらざるあり例へば日本あらば門付けあるは手ゝて三味線抔を彈き錢を乞ふを通例と爲す彼地にては通例機械の樂品を用ひ街上ゝ立ちて其の機械の把手をクル〳〵と回せば自からヒヤノの如き音樂を奏し此を以て錢を乞ひ居るあり尤も其の中ゝて手ゝて樂器を動かして樂を奏し錢を乞ふ者も隨分なきゝ之あらざるとあがら先づ通例は右の機械奏樂の方多きゝ居るなり又著しき東西の相違之日本の坐行車と彼地の坐行車との比較を見合はせて之を知るべし乞食の事あれば深く注文せしゝもあらざるべけれども道具を造る職人の巧者ある故ゝや彼地の覺者は一種の車ゝ乘り居れり之を日本の通常の簡古ある坐行車ゝ比較する時は實ゝ大なる相違ありて我方の唯た板ゝ小さき車を付け棒にてユヲ行く丈の事あるゝ彼は幾分か趣向を運らし二本の棒を動せば機械の働ゝて車の運動する如くあり居れり元來坐行車のとあれば固より發明人と云へる程の者の之れありしゝもあらざるべく只た尋常の職人ゝ注文して造るとあるべしと雖も早や日本抔

と比ぶれば大なる進歩を爲し居れり

●問　英國にて議員大改選の節改進保守の兩黨が其選擧に勝敗を爭ふの有樣は如何

●答　余輩の親しく見聞するを得たるは一昨千八百八十五年の大改選及び昨年の臨時改選の有樣なりしが一昨年の大改選に保守黨の內閣敗れて政府の全權に改進黨の手に落ちたる儘五ヶ年の間打ち續きし後の大改選ありしかば双方の爭ひも非常に劇しき方ありし由なり英國の內閣が五ヶ年間持ち續くは先づ珍らしき例にて此の百年間に長きは十八九年續きたるものもあれど先づ平均の年數は三年內外を常とす然るに保守黨が敗れてより以來五ヶ年間改進黨の勢力實に旭日の如く一昨年春夏の頃迄は今ま十餘年も持ち續くべきが如くに世間にても噂し居たる程なり左れば保守黨は此度の大改選を以ては是非とも勝利を得て政權を回復せんと非常に盡力せしも亦た當然の事と云ふべし去り乍ら一昨年の大改選には到底の勝利は先づ矢張り改進黨に歸すべきやに見へさりしなり尤も世人の知る如く大改選の兩三ヶ月前に改進黨は內閣を退き保守黨代りて政權を執り居たる事あれども迚も保守黨の永續せんことは覺束なく政權に再び改進黨の手に歸す可しとの前表に先づ十人の九人迄は認め居たり去り然れども兎に角にも五ヶ年目にて久々の大改選あれば双方の用意も亦た十分行屆きたる有樣ありき

米國の大統領選擧抔は全國諸州同日に之を爲すことなれば唯だ一日を以て双方の勝敗を決するなり然るに英國のことは古來よりの慣習にて國內の諸州諸都府にて其日割種々に違ひ早きあり晩きありて最初に投票の始まる地方より最後の地方に至る迄凡そ十五日以上を費やすなり其間日々電報にて各地より兩黨の事務所に勿論新聞社に當て某州にては何黨勝ちたり何都府にては某黨の方當選せりとの報道引きも切らぬ而して新聞社の外面の窓には又た其時々に各地の兩黨の勝敗の數を貼出すこと故之を觀んとて新聞社の前は見物人にて黑山を成し居るあり斯く群集して貼出しを觀居る處へ又た一州より改進黨が勝ちしとか保守黨が勝ちしとかの知らせ來りて之を窓に貼り添へる時に見物人の中にて其の勝ちたる政黨方に最負ある者にフライ〳〵とかワー〳〵とか聲を立て、興を揚げ勝利を祝するに又た負けたる政黨最負の方の見物人にウ、ー、ン、ウ、ン、と聲を立て、呻めくあり彼地の詞にて此の呻きをタラウンと云ふ他國人が聞き居る時には實に笑しなるものあるが不平方に頻りに大聲を出だして此の呻きを立るあり左れば選擧の間重ある會同館又は新聞社の前は每日朝より晩まで見物人の絶ることなし實に盛なる有樣なり

扨て余等は英國の中より何れの地方の撰擧の有樣を見る可き歟と相談せし處龍動より西北五六十里を隔てたる有名あるボルミンハムの都府は其製造工業の繁昌なるのみならず政治上よりは人民の殊に熱心ある土地にて同府の民は各人皆政治家ならざるはなしと仇名さる、程なり之に加ふるに此ボルミンハムは彼の改進黨中最も世人に屬望さるヽチャムベルライン氏の鄕里にて同氏の本營と頼み居る地方なり且つ此度の大改選にて有名あるジョン、ブライト、氏も同府にて撰擧區を爭ひ又保守黨にて今日屈指の人物と稱せらるヽチャーチル氏の加きも亦た同府にて選擧を爭ふ譯なれば其土地と云ひ其候補者と云ふ此都府こそ先づ英國撰擧の手本とすべき一番の觀物たるべしと聞きしかば乃ち同府に赴くことゝ決したり扨て同府の各區は投票日と定まりし日の一日前に余等は龍動より急足して同府に赴きしが餘り心急きたるまゝ滊車を乘過まりて同府を通り過ぎ二十里許りもマンチェスターの方に赴き中途にて復た他の滊車に乘移りて再び同府に至る抔不都合なること多かりしも同府に着せし時は幸にして尚は甚はだ晩からざりしかば同夜チャンベルライン氏は演説の定刻には間に合ひたり

問　引續てボルミンハム府にて初しく御聽きありしチャムベルライン氏の演説の摸樣及

び其他大改選の景況を承はり度し

答　余等は旅宿を定むるや否や直に同氏の演説の場所に駈け付け覗れば早や聽衆は堂内に充滿し其中庭までもヒシ〳〵と詰め合ひ居り尚は其上に多人數外より推入らんとするを屈强なる巡査十名餘りも立ち塞がりて之を防き居る有樣にて中々演説堂内に入ることは思もよらざる有樣ありき因て一と工夫を按出し其處に居合はす一二名の巡査を傍に招き我々は同氏の演説を聽聞せんが爲めわざ〳〵遠々と龍動より來りし者なり何とかして堂内に入れ呉れよと懇に依頼し聊の心付を與へしかば彼等も外國人の遠方より來りしを氣の毒に思ひけん今は暫時待つべしとて種々に盡力すれ共何分雲霞の加き聽衆が堂外より押寄せ推詰め居ることなれば如何とも爲すこと能はずして一時間許りも庭内に佇み居たれ共爲ん術なければ余等は痛く失望して早や旅宿にも歸らんかと思居たるに四五名の巡査來りて如何にもして堂内に送り込べき間我等の間に介より給へとて前に二三人後に二三人にて其間に余等を夾み聽衆を推分けて入口の前に進みたり隙ねて打合せありしかや入口に達すると斜めに少しく戸を開くや否や其處に群集せる人民と一同に激浪の如く押寄せ來るを巡査の盡力にて余等のみは首尾好く堂内に入るを得たり（因に記す英國の巡査は最も身材の大いなる者

を撰抜すると、見へ左らぬだに丈高き英人の中にて更に目立つ計りの大男のみなり伯林、巴里、抔の巡査い其骨格身材の大小に至ては迚も英國の巡査に及ぶこと能はす左れば予等の如きは其腕下をも潜るべき程の大男が五六人余等を夾みて堂内に送り呉れたることなれば斯くは首尾能く其中に入るを得たりしなり)

扨て堂内に入り見れば立錐の地無き迄に聽衆は充滿し居れ共兎に角に倚は庭前にて人民の推合ひ居る程の窮屈なる有様にいわらぬ躰を斜にして群衆を推分くれば彼方此方に動き行くことも出來たりき尤も椅子抔の如き腰掛あるは只た演臺に近き前の方二三間の所にて其他は聽衆は皆な立ち居るなり正面を望み見れば恰も日本の機敷より舞臺を見たる如く一段高き演壇ありて此時にいチャンベルライン氏今ま方さに演説し居れり同氏い演臺の前面に立ち其の前には卓子あり卓子の上にはコップに水を入れあること恰も日本の演説の有様と同一なり尤も演説者は卓子の前には立たず卓子より離れて近く聽衆に進み近づき演説し居れり又た其演臺は舞臺の如くにして其上は少し手廣なれば此區の改進黨の重立たる人々、世話人、及び數名の貴婦人い皆な演説者の後に椅子を並べて二十餘名も列席し居れり扨て予等い此度に限らぬ彼地の人より丈低く何分人の肩のみ見へて遠方の有様を見難きが故に

成るべく人を押分けて前の方に進行かんとしけるに聽衆も早くも余等が外國人なるを認めたりと見へ口々に「外國の紳士なり前に通せ〳〵」と傳呼して成べく路を開き呉れければ余等も好き事に思ひ路の開けしを幸ひムヤミに演説者に近く進み行くに隙ひ益々路開け次第に又り進みて演臺より二三間の所に達せしかば最早此にて宜しと止りしに演臺の上なる世話人等は早くも余等を認めしあや其中の一兩人下り來りて其處は不自由なるべし此方に然るべき場所之れ有りとて彼の演壇の上に伴はんとしければ余等は幸なる事に者へ導かるゝか儘演臺の上に登り他の紳士、貴婦人と共に椅子に凭りて聽問したることなりき此度に限らぬとながらボルミンハムの人民が外國人を親切に取扱ふの好意に余等の深く感謝する所なり之を思へば外國人とさへ云へば直ちに之を敵視する東洋人の風は實に慚愧に堪へざる面相容貌の相違にて直ちに外國人と見るや斯迄に丁寧に取扱はるゝは万里の他郷に在る者の身に取りては實に喜ばしく思ふなり右の世話人らしき紳士か外國人を斯く取扱ふは先づ然あるべきことながら演壇より隔たりたる聽衆い多く職人体とも見ゆる有様なりしに斯る者共に至る迄口々に「外國の紳士なり〳〵」とて故さらに路を開き前に進ませしむるなど
は實に感するに餘まりありと云ふへし

●問　引續てチャムベルライン氏演説の摸様を承り度し

●答　扨てチャムベルライン氏の演説は先づ英吉利風の中よりては活潑なるものなるべし余等は當夜四五間傍よりて近く聽居たることなれば余等の耳よりも先つ大抵は分明よ意味を解し得たりしことなりボルミンハム府は全体よ氏の部下多ければ此夜の聽衆も大抵は同黨の人々なりしなり氏の演説の大体を言へば聽衆をば殆ど掌の中よ入れ居る容子にて其の喜怒を支配し抑揚すること自由自在なるの有様なり其一例を言へば右選擧の時は彼の地面論の事喧しく「牝牛一頭と地面三エーカル」の話の名高き頃ありければ氏の演説も專ら地面の事に關係し居りしが聽衆の中に一人ノーノーと叫びし者ありしに氏は直ちに其邊に向ひ「諸君、此處よも一人の地主あり」と笑ひ指せしに之と同時に聽衆は鬨を作て其ノーノーの聲の發せし方に涙を翻へすが如く推し行きたり聽衆の喜怒は一に氏の言に因りて左右し得べきこと此の如し

演説の論鋒は聽衆次第にて或は深く或は淺きは勿論免かれ難きことなり氏の當夜の演説を氏か平素議院にて述る所の議論の体に比較するときは實に淺く分り易きを主とせしものと見へ其論鋒に於ては曾て感服すへき處も見へず只た如何にも聽衆を悦ばし躬方に勢をつけ

る勝手の理窟のみを述べし者と評するも可あらん左れは概したる所當夜の有様は先つ一口に言へば政治上の祭禮とも稱すべきものあるべし元來此區は氏の選擧區にはあらず但た其の部下の政友を此區より選擧せしめんが爲に援兵に出懸けしものあり果して翌日の選擧よ此區は改進黨の方に多數を得たることありき

又た説壇の前よは各新聞社の通信者ありて各々傍目もふらず筆記したり七八分若くは十分毎よ其書き終りしものを傍ちに待居る小使に持たせて銘々の社よ送り遣はす有様抔は實よ忙敷ことありし

扨て右演説の翌日は投票の當日にて則ち両黨か其の勝敗を決するの日なり豫ねては投票の當日は定めて賑かあることなふんと想ひ居たりき玄に其靜あることは實に意外なりき先づ各區よ臨時一二ヶ所定まれる投票の役所を設け之よ役人出張し居りて朝九時頃より夜八時頃に至る迄の間各選擧人はソレ〳〵其の役所よ赴むき投票を爲すことあり其法は先づ三四寸四方の骨牌の如き紙ありて之よ其區の候補者の姓名を記載しあり通例は改進保守の両黨より各〻一名を出すことなれば候補者は二名なれ共中立黨或は獨立黨抔の其區よある時又は改進黨保守黨中よて候補者の相談調はゞ一黨より二名の候補者出つる時は右の骨牌の上よ

三四名の姓名を記することもあり左れと先づ通例は兩黨の候補者一名宛合せて二名の姓名を印刷しあるなり扨て選擧人は先つ此役所に進み行きて右の投票用紙を求むることあり其時役人は其者の姓名番地等を問糺し選擧人は逐一之に返答せさるべからす左する時には之を豫ねて扣へある選擧人姓名錄に引合せ愈〻相違なきに於ては候補者の姓名を印刷したる右の投票用紙を渡すことなり選擧人は鉛筆にて其二名の内己れの好む所の候補者の姓名の上に十文字の印を付け之を投票函の中に投し然して後に出て行くなり是にて其選擧人の選擧の手續きは先つ終れるものなり

右は至極簡單にて盡た手間の入らざる仕方なり選擧人は只た其選擧せんと欲する候補者の姓名の上に十文字を記して函に投ずる丈の事なればなり然れども茲に不正の行はるゝ他の選擧人の姓名を僞はりて役人より投票用紙を受取り我黨の候補者に一枚にても多數を與へんと試むるの一事にて是には重き罰あり一昨々年の選擧の節も各地方にて往々右投票の賊をなす者之れありし由當時の新聞紙上に見へたりき

●問　其他投票の手續及び自餘の有樣如何

●答　投票の始末先づ前記の通りなるが故に外部より觀れば只た投票所に選擧人の出入を

爲すのみにて別に何等の賑かなることもなし但た茲に當くよりの仕來りの殘れるは兩黨かの各〻其の重もなる躬方をば別仕立の馬車を以て投票所に送り込むことなり英國には嚴重なる投擧令ありて選擧の爲に賄賂を行ひ或は賄賂を受け或は金錢を以て種々のことを爲すは皆な嚴罰あり左れば何事も只た金錢の綠を離れ相談づくにて爲すことならでは出來ず若しも然らすんは反對黨の爲に苦情を申し立らるゝの恐れあり故に通例商賣の馬車抔を金錢にて借入れ之を用ふるは法律に背くが故に其黨内の人の手持の馬車抔を貸渡し之を其黨の用に供することなり選擧の節には各選擧區に兩黨とも各〻臨時に其事務所を設けあり其黨中の事をば万端此の臨時事務所にて取扱ふなり左れば右借用すへき所の手持馬車をば多く事務所に集め扨て譜代の黨員其他定まれる躬方の選擧人等が事務所に來るを待ち右の馬車に打乘せ馬車の横には各〻其黨の得意の文言抔を貼付け或は其黨の候補者の名前等を記載し此車にて事務所より選擧人等を投票所に送出すことなり去乍ら是れすらも餘り賑かには見へず先づ一通りのことなり英國にては概したる所改進黨には金滿家少なく保守黨には財産家多きが故に事務所より選擧人を投票所に送る馬車抔は各區共に通例保守黨の方の賑かある に勝を取らるゝなり

又其區の候補者い馬車にて時々其區内を乘廻り己の顔を見せて投擧人に勢を付け躬方に聞ますの一手段と爲すなりチャーチヒル氏の室に素て美人の名ある人なりしが其夫の勝利を助けんが爲に同日も馬車にて頻りに其區を乘廻りし由あれ共余等は行違ひて之を見るを得ざりし扨て此日も暮れて十時頃に至り最早各區選票の結果も布告さるゝあらんと待居たるに此の結果を調ぶるに之を立會人ありて一々之を監査する等其他鄭重の手數あるが故に中々急には纏まらず十二時前後に至りて始めて結果を警察署の前に貼出したり兩黨の撰擧人共に結果如何と待に待て眺居たることあれば其貼出しを掲くる毎に双方最良の見物人は黑山の如く群集し居り互に鬨の聲を揚げて勝利〳〵とて躍り狂ふもあれば負け方は又た例の呻き聲を立てるもあり中々に大騒ぎなり尤も群衆の一番多く集まる所は府廳の前ある廣小路なりき愛蘭人民の同府に出稼ぎを爲し居る者等は職人あがらも各〻其帽子に白き紙を付け之に「行け、汝の國を救へ」の文字を書して之を正面に被ふり三々五々相伴ふて歩行し居る者も見受けたり勝てば勝ちし樣に負ければ負けし樣に各〻得意もあり小言もあり同夜は三時四時迄も廣小路の近處に始んど人通りの絶へざる程の賑ひなりし扨て同日の結果はチャムベルライン氏は勿論ジョン、ブライト氏（何れも改進黨の先輩）も當選せしがチャーチヒル

氏い反對の候補者のため先に敗られ直ちに引返して龍動府内のパッテントンの區に出て是より二三日後に當選せり同氏ボルミンハムにて迚も當選は覺束なきは畧ぼ知れ居りしも同府は常に改進黨の爲に蹂躙せられ保守黨の勢少きが故に同氏を闘ふて先づ其候補者と爲せしものなりと聞けり左もあるべしと思はる

以上はボルミンハムの撰擧區の有樣を畧記したとなから選票の投樣兩黨の事務所の有樣其他都へて何れも先づ之と同樣と知る可し以下い全体の選擧の有樣を畧述すべし

問　然らは其大改選總体の有樣は如何

答　大改選の爭は先づ其豫期の投票日の畧定まる時より漸々に始まることあれ共兩黨開戰の端い先づ兩黨の重なる黨員が其撰擧區の人民に對して銘々の意見書を發布する時より啓くるものと云ふて可なり此意見書の發布は兩黨の中一方は先きに一方は後るゝ如き譯にて假へば甲黨の方にて先づ乙黨をして意見を發露せしめ然る後之を攻擊するを以て勝を取らんと欲する時は成るべく控目にして自分の意見書を發布することをは俟居るべく又た雙方の持論も畧は平日より定まり居ることならば斯る駈引には關せず已れの必ず勝者たるべきの地位を恃み自ら先きんして意見書を發布するも有るべし一昨々年の如きはグラットス

トーン氏が第一に其意見書を發布し保守黨の方は之を俟ち受けて攻擊するより戰を開きたる姿なりと又兩黨の中にて末流の候補者等は先づ其黨中の領袖たる人々の意見書の出つるを俟ち居りて之に擬擬して己も亦た已れ相應の意見書を作りて之を其選擧區内の人民に示すことなり兩黨共に其末流の候補者か只た其黨の先驅の出したる意見書の骨髓共言ふべき箇條を簡單に少し許り寫し取り書き直し之を已れの意見書として出すもなか〳〵に笑しく興あり撰擧の時節に諸方を行き視れば處々の停車場の壁抔に其區〳〵の兩黨の候補者より出せし意見書を印刷してあちらこちらに貼付けあるもの多し又た候補者は右意見書を發布せし上は少くも一二回は其區内にて演說會を開くことなり又た其他各黨〳〵にて内會を開きて躬方の勝利に付色々相談抔もあり凡そ是等の諸會は皆あ其區〳〵の重なる黨員が世話掛となり之を執行ふなり余等も知人に伴はれて一夕某區の保守黨の内會に赴きしことあり是は内會のことなれば先づ保守黨最貧の譜代の人々のみ集まりて此度の勝利を得んことを相談するの會なるが見渡したる所五六十人許りあり白髮の老翁其半を占め日本にて言へば歳にも恥ぢずと云ふべき程の人々が白髮頭を振立てゝ頻りに躬方の勝利を工夫する抔冷眼より見れば笑かしき程に熱心なるは感すべき事なり

又た候補者の演說會も保守黨の方は先づ聽衆には豫め入場の切符を渡すことし聽衆をして勝手次第には入らしめざる向多かりし蓋し斯く爲さゞれば反對黨の者共多く入りて來りて妨を爲すの憂あるが故なるべし改進黨の方は概して自由集會にて切符を用ゐるに及ばざりし者多し如何にも地方に(四て反對黨非常に多く亂暴も爲し兼ねざるべき場合には切符集會を爲して聽衆を肆まゝに入れざるも時に取ての良謀と云ふべし後來日本にても國會議員選擧の節抔に一黨のみ非常に多く他の一黨非常に少く隨意集會を爲す時は他黨の爲に亂暴なる妨を受くるの恐あるに當ては是非共之を嚴制せざるべからず斯る場合には巡査を用ふることは通例なるべしと雖とも右保守黨の如く切符を用ひて集會を爲すの法も亦一の好手段なるべし

又選擧の七八日前より其區内の處々に貼紙を出し之に「何黨の候補者某を選擧せよ」と大字にて認めしもの多し或は「候補者某平和主義の躬方を爲せ」とか或は「某の主義に躬方を爲せ」とか一二の詞附加へあるものも之れあり其貼紙の大さは通例二三尺四方のもの多し四尺以上のものは先づ見當らざりしと覺へ扨て爰に奇異なるは黨に因て此の字抔の色を異がへ居ることと是なり例せば右貼札の大字を書するにも保守黨は必ず青色を用ひ改進黨

は多く赤色を用ゐ故ゑ其字の色を見れば通例敵躬方を區別し得ることなり去乍ら地方ゑ因ては改進黨に青色を用ふるものも少からず保守黨よりは吾黨の色を盜みし抔と喇けり誹るを以て見れば青色は全体ゑ保守黨の色ありしと見も斯く青は稀れゑ兩黨混淆する事おれ共赤に至ては保守黨の決して之を用ふるとあし右の敵躬方の紛れを避るが爲ゐ保守黨の中には黄色を用ふる者もあり是れ蓋し保守黨の首領たりし故ビーコンスフィールド候が園草を愛せしが故ゐ其花の色ゑ象とりて遂に保守黨の一の色と爲すゑ至りしものと云へり又た青は五色の中ゑて最も久しきに耐へて變せざるものありとの意味より保守黨の方は之を其主義に近く永續の義を表する者なりと爲し古代時代より之を以て其黨の色と爲せしと云へり

問　彼地ゑてメスメリズム或はスピリチユーアリズムと稱へ一種不思議なる力を用ふる者之れあるやゑ聞しが果して如何のものにや

答　如何ゑも其の事は豫てより承はり居れりメスメリズム或はスピリチユーアリズムと稱ふる奇術家の内には人の面部を輕く撫で撫る眞似を爲し居ると二三分も經つ時は其の術を施されたる人はウトウトと眠りを催ふし又たは旋術者の命ずるが儘に如何なる擧動をも爲さしむる者あり又た頭の上をソッと手にて撫る眞似を爲すと暫時なる時は其術を施され

たる人の意中を悉く見顯すことを得今は爾々の事を思ひ居るならん然々のことを欲し居るなるべしと之を探ぐり當てる事に妙を得たるものなり又た室を隔て他人が紙上に如何なるものを描きしゑ如何なる形ちを寫せしかを云ひ當てる者あり右は折〻新聞紙にも見へ又た話しゑも聞きたることあれば一とたび右の奇術家に出逢ひたしと思ふ心頻りに起り來れりさりながら餘り世間ゑはありふれざるものと見へこれを見るの機會に出逢はざりしを甚だ遺憾に思ひ居たり然るに一昨年の夏の末づ頃余等が倫敦西北隅に寓居せしに圖らず其の近所の街頭に右の奇術家現れたることを聞き出せり尤も通例の落語或ゑ芝居の如く席を設けて此の術を施し見物人より席料を収る仕組みにて其奇術家は佛人マダム某と云へる者の由頻りゑ評判せり且つ所〻ゑ貼り札抔も見受けたりければ之を宿屋の主婦ゑ語り「御身は如何ゐ思はるゝや斯の如き奇術は隨分實事に之ありと思はるゝや」と茶飲み話しゑ話したるゑ彼の主婦は「左ればなり先年我懇意の者が其妻を失ひしに跡ゐ一二歳の小兒ありて毎夜母を慕ひ終夜眠らずして泣き續けて居たりしが遂に不眠の病症となりて其の父親ゑ無論親戚さへ甚だ難澁したりけるさりなから後ゑは其小兒ゑ夜中藥劑を用ひて眠らしむることゝなしたれども何分魔睡劑を屢々用ふるゑ身体に宜しからずとて大に心を傷めける折しも幸ひ其の

邊に眠りを催ふさしむる奇術家ありければ之を雇ひ來りて毎夜其術を施さしめしが毎時も小兒は能く眠りたるとあり左れば強ち右の奇術の之なきにも非るべし」と答へたり「左ふば其の子は後年まで成長したりや」と問掛けしに「如何ぞも尋常の子供と異ることなく成人せしは親しく我知れる所なり」との答を得たれば今は轉た右の奇術を見物したしとの心を增し左れば兎も角も行て其の模樣を試し見んとて二三人打連れて見物に出掛るとはなれり

偖て右の興行場に至り見れば通常音樂抔を爲して人を集る場所なりけり先づ場内に芝居場の如く又た通例の寄席よ髣髴たり向ふには舞臺の設けあり此方よは上等中等下等桟敷あり殊に此の夜は既ふ大入よて見物人は七八百人も場内に充滿し居たり孰れの國の寄席にても少しく入りのある時先づ第一よ見物人の充滿するは中等下等の場所にて上等の桟敷は明き間多きが常なるが此の場内も亦同樣よて大入なれども未だ上等の桟敷は滿ち居らざりしがば余等の連中は則ち此の桟敷にと席を定めたり尤も舞臺より僅ろに二三間を隔て居る所なれば都てのことを見物するには甚た便利なる所なり

已にして彼の奇術家の婦人現れ出ると與に滿場喝采の聲喧あがら湧くが如くよて代〻人と云へるは先づ三十前後の年齡にて美人と云ふ程にはあらねども其の人品も卑しからず如何

にも佛蘭西人よ一寸相應なる骨格にて其身躰顏抔は與に少し平たく肥りたる方にて髮の毛は黑く顏の色は雪を欺く程よ白くして少しく赤みを帶び其上美事なる衣服をさへ着け居ることなれば適ふなる品格よそ見へたりける只た其の目元如何にも銳く其の言語擧動は沈着にして最と靜うなれども底意の惡しき氣象自ら現れ來り恰のも小說抔ふ形容せる魔法使ひの女と云へる容貌ありけり同伴せし宿屋の主婦抔之を見て如何にも邪氣味惡き女かなと評したるばかりなり扨て此女の奇術家は先つ見物人よ向て默禮し其の術の事よ付き聊か演說せり其の大体は「抑もこの術たるや決して怪み驚くべきものよ非らず理學上より其の理あるを締め得べきものよて只其の力、世人の耳目よ物珍らしきが故よ之を疑ひ怪しむ者あれども右い大なる誤解なり」と云ふにありて何か理學よ緣因せし樣よ演說爲したり右終りて再び見物人に向ひ「我れ只今我術を試みたく思ひ候へば見物人の内より九人はかり此所よ御出あらんことを乞ふ又た茲よ申し置くべきことあり此のメスメリズムの力は多く感ずる人と少く感する人とあると恰も倘は電氣よ對して多く之よ感ずる人と少く之よ感する人とあるが如しされば我術を試みたる上よて其の感じ少き人もあるならん其の節は代り人を求むべし又た我術を施す間は我命ずる所を守らずしては叶はぬことあり我が命を守らざれい

とても此法を感すべきものにあらす斯る人此方より相斷るへし能々此の旨を諒せられよ」と云ひ出したり

扨て何者が試驗を受けに來るやと思ふ内に下等棧敷の方より十餘人ばかり出來りしかば其内九人を取りて跡をば斷はりて元の棧敷へと返へらしめたり何處も人情は同樣と見へ中等以上の人々は衆人中にて斯る試驗を受けんが爲めに舞臺に上るは其品格に關するとなれば とて上中等の棧敷よりは一人として動くものなく我れ先にと出る者は皆な下等棧敷の品格を摹はさる者ばかりなり扨て此の受驗人等は舞臺に上るや否や其數に應ぜる丈けの椅子を見物人に面して一列に並べ受驗人等をして一々之に着かしめたり此の時下等棧敷の方より は、ドット一度に鯨波の聲を上け手拍敲ひて騒ぎ立てしい此の試驗を受けに出掛けたる仲間をはやしたることと見へたり

扨て今や試驗を施こさんとするに方り彼女は受驗人等に打ち向ひ都て何事も我命する如くに爲すこそ肝要なれ先づ各々右の手を出すべしと云ひければ受驗人等右の手を差出して掌を開きたり此の時彼女は懷中より直徑二寸計りと見もる碁石形の丸き平たき物を採り出して一々受驗人の掌の上に置き「我の留むるまでは瞳を定めて一意此の品物を見詰め居るべし」と命じたり右の碁石の如き物は定かにそれと見分け兼ねしが其の面渦形を爲せる樣に見受けられたり扨て「其の儘に見詰めて我命を守るべしと」聞くより此方の受驗人等は皆あ一同に脇目も觸ず其物をのみ一生懸命に見詰め居たりしが中にも心輕ろげある者と見へ時々ソワ〳〵と見物人の方を打ち詠め或は彼女の顏を見る者もありけり彼女は斯くと見るより其傍らに近か寄りつゝ「左樣にて迚もこの術の行はるべきものにあらず疾く〳〵棧敷に返るへし」とて一兩人を逐返へしたり扨て五分或は八九分も經ちしかと思ふ頃彼の受驗人等は其の頭フラ〳〵と搖らるゝ樣に見へたりしが一人二人其の坐し居る椅子よりバタリと倒れ其の儘に眠り居たり又た他の者を見れば其手を詠めながらユラリ〳〵と睡り出し何れも久しかゝぬ内椅子より落ちて其邊に倒れたる儘睡りたり其の時彼女は彼の碁石の如きものを一々に仕舞ひつゝ見物人に向て「メスメリズムの力を以て睡ふしめたること斯くの如し又た是れよりメスメリズムの力を解き放ち受驗人をして元の如くに立ち返らしむべし」と云ひ了りて彼の倒れたる受驗人の一人を引き起し己れの顏を打ち守らしめ其の面前にて左右の手を以て「八」の字の如き形を爲すこと四五回に及びし後ちハッと叫びて手を叩くと與に受驗人はガッと目を見開き正氣付きたる有樣にて恰も午睡より起き出しものゝ如く

顔の彼方此方を撫で擦りつゝ、伸びしたるばかりなり彼女は斯くの如くして一〻受驗人の目を覺ましめたる後ち彼等に向ひ「如何ある心持せしや足下等は今睡りしか如何ある譯にて眠りしや我に語り聞かせよ」と云ひければ彼等は「如何ある譯にや只眠りたるのみにして其譯を知らぬ」と答へたり

夫れより又た受驗人を一列に並ばしめ「我の顔を見詰めて我爲す通りに爲すべし」とて先づ直立して左右の手を一文字に開き再び之を合しては開き開きては合し斯の如くすると十餘回なりしが其の後ちは受驗人等自ら止めんと欲するも止むること能はぬ恰も海邊にてウチ蟹と云へる蟹か爪を上げて幾回となく打續けるが如く又機械の運轉するが如く右の七八人が殊しく体操運動を初めたるには余等も覺へず失笑したり此の時彼女は見物人に向ひ「若し メスメリズムの力を解かざれば御覽の如く幾時間も此の開合運動を爲し續くべし最はや十分御見物になりたれば是れよりこの力を解き放べきとて一人つゝ以前の如く兩手を「八」の字形に爲すこと二三回にして其後ちハッと叫びて手を打てば受驗人は各〻メマクラたる如く忙然として其運動を留めたり斯くて後ち又云ひけるやう「此次には二人宛聯合せしめ見るべしとて二人を一と組と爲し各左りの手と右の手を一つに組ましめ兩人の肩の密接せしめ

然る後其の襟元より肩の邊を何か頭りに撫で廻はして居たりしが暫くして受驗人の組合ひたる者に向ひ「君等の力にて今互ひに組み合ふたる其の片手を兎に引き離し見よ力を盡して引き離し見よ」と敎へければ受驗人は兩人あゝら互ひに之を引き離さんとすれども決して離れぬ然れば善し、君等の力にては到底引き離し得ぬと思ふや如何にと」問しに「如何んとも致し方なしと」答ければ「我之を解き遣かはすべし」とて又た肩先より襟の邊を撫る眞似を爲し手を打て「何れも其手を引き離し見るべし」と云ふに右の者等は其の組み合ふたる手を容易く別々に引き離すことを得たり

●問　引き續きてメスメリズムの事を承ることたし

●答　それより又さ彼女は受驗人等を一列に並ばしめ「此のたびは受驗人一同を笑はしむへし」と告げ乃ち各〻に向て其の術を施しけるに都合七八人の受驗者は皆な初めの程いかゝ〻と笑ひ居たりしが後ちには其可笑しさに耐へざる樣子にて互ひに指さして笑ひ合ひ或は見物人を指さして笑ひ出し最初は其の笑ふ度毎に各々横腹を抱へ居たりしが終には其の笑ひ耐へもやありけん舞臺を轉げ廻りつゝ笑ひ出しければ余等も之を見て自から笑ひ出し横腹を痛くしたる程なりき扨て彼女は最早や宜しからんとて一々受驗人等の傍らに稽

暫らく不思議なる手附きをなし終に受驗人の眼前よりパタと手を拍ちしかば受驗人等は皆
な〳〵夢の覺めたる如くよ正氣づき初めて笑ひを留めたり右受驗人等の笑ひ方と求めて假
笑ひしたるものとも思はれも眞よ可笑しくして腹の底より笑ひ出せるものと見受けられた
り

扨て此の次よは受驗人の右の手右の足を痺れしめて不感ひと爲し或は其の近所の手の達ず
る所よ貴重なる物品を据へ置きて之を取れと命ぜれども受驗人等自ら取る能わざりし又た
其の最後よ至て小供用の酒弄の大皷喇叭の如き諸樂器を宛てがひしよ受驗人等と恰かも子
供の如く更ふ餘念なく樣々の惡戯しを爲すよは余等も絶へも笑ひ續けたり此の夜は是れよ
て打ち切りとなり皆な〳〵思ひ〳〵よ散じ歸りたり

さて其の翌日余等の下宿にては此のメスメリズムの一事が一話物となりて彼の受驗人等の
笑ひ方と云ひ其の所作と云ひ故さらよ斯くするものよ非も眞よ出るものなりと云ふ者あり
或と之を疑ひて左樣なる事のあるべきものよ非す是れ迄メスメリズム、スピリチウーアリ
ズムと唱ふる術も世間を惑す程の實力なき者多し抔と云へるものあり終よ爭論の種子を
生じ遂り其の中ふも余等の如きは右の力を試したく又た其の理をも究めたく思ひ頻かよメ

スメリズム、スピリチウーアリズム」よ關せる書類抔を求め得て其の理を究ひへし抔との議
きを爲せし程なりしが去るよても余等は今一應之を確かめ置かざるべからす我〳〵ハ外國人
なり旅の恥は掻き捨て我〳〵自から進んで其の試驗を受けんかそれも餘りのとなりとて差し
扣へ此上は何とかして然るべき者を雇ひ入れ其の者よ彼の術を試させたしと乃ち此の家の
主婦よ向ひ「金ハ相應の所迄我〳〵より辨ぜへけれは然るべき職人体の者よても十餘名ばか
り雇ひ呉れよ今宵こそ此等の傭人を率ひて再び彼の場よ赴き傭人等ふ其の術を受けさせ此
等の傭人より其の力の感ぜる時の有樣は如何ありしや如何なる心持せしやを聞糺したし」
とて其の傭ひ入れを頼み入りければ彼主婦も去る者よて「私共も其理を知り度一事よ就き
ては尊公方と御同説あり必ふも力を盡すべし」とてそれより出入の八百屋或は近所の酒屋
よ赴きて頻りよ受驗人とおるべきものを尋ぬ求めしよ尋常の者ハ皆な左樣なる奇術を施さ
れては如何なる心持するやも測り難し氣眛の惑さとありとて一向よ募りよ應ぜる者なく爲
めよ其日之事を果さゞりし然るに余等と倘も試驗の念絶へもして翌日も又た主婦に賴み頻
りよ雇人を捜さしめしよ遂よ受驗人となるべきもの四名を得たり由て先づ其の者等と約定
を爲し「彼等の入場料は余等より之を辨ぜへし又た彼女の命を率ひて十分に試驗を受けた

る上は三シルリング計り（我七十五錢より八十錢内外に當る）を與ふへし若し彼女に例ね除けられて試驗を受けざる時は別に三シルリングを與へ也只彼等の見物得と爲すべし」と申し渡し如何なる者共にやと其の樣子を窺ひ見るに何れも皆あ廿二三計りの若者にて氣の利きたる樣にもあれど隨分馬鹿氣たる所少あかゝも斯る者にては如何にやと氣遣ひしも他に選りに應ぜる者なければ先づ之を用ふることに決し扨て今夜こそ此等の受驗人を突然彼の舞臺に登らしむべしと用意茲に整ひたれば此の下宿の家内中打ち揃ふて左らば是れより見物に出掛けようとて皆あ〳〵余等と與に立ち出たり

●問　引續き〆〆メリズム試驗の模樣を承りたし

●答　扨て例の刻限に彼の場に至り余等の一行は雇ひ入れし者共と皆あそれ〴〵の棧敷に入れり兎角して幕も開き彼女は例の如く現れ出て又た例の如き口上を述べ見物人の中より十餘名來るべしと求めたりスハや今こそ余等の雇人も出づべしと眼を注て見てありしに大勢の望み人の中より先づ十餘名は舞臺に出るとあれり其中に余輩の雇ひたる者二人丈け入込むことを得たり左らば此者共が如何ある力を感ずるやと片唾を呑んで見てありしに其一人は試驗を行ふに及ばずして〴〵と例ね出されたり今一人は後に遣りしかば先づ好しと思ひ居たりしに間もなくし其ての者も亦た悲に例ね出され余輩は甚だ失望したりしとなりしが又た能く〳〵見れば舞臺に昇りたる受驗人の中の二三人は先夜も舞臺にて見掛けたりし受驗人に相違なく慥に其の顏付きに見覺へありければ猪ては一杯食はせられたりと早や茲に感付きしかば尙ほも其心して都ての事に注意するに疑はしき事のみ多かりし斯くて其夜も打ち出しとあり皆な打ち連れて歸りし後ち余等は彼の雇人等に向ひ「汝等の如何にして只た二人のみ舞臺に昇りて他は昇り得ざりし」やと問ふに「後邊の棧敷より上等の樣敷の間に一二の闘門ありて嚴しく取締り容易に人を入れず何か譯ある事にや其闘門を取締るものが隨意に人を擇まて舞臺に昇るべきものを定だむることにて我々は眞先に飛出したれども右の闘門にて支へられ〴〵と答え又他の雇人が「彼の舞臺に昇りて受驗人に用ひらるゝ中に余の知れる男あり彼は毎夜舞臺に昇るなり定めて彼女と彼との間に何等かの約束ありてもあるとならん」と云へるも可笑しく又た其の他の樣子を見るに甚だ不都合あるとのみなりけとば余等の仲間にては「扨ては柄一喰はせられたるに相違なき」とて果は笑ひになりしが兎に角に余等の寡りに應じたる者共を其の儘は返へさんも氣の毒なれば迚各〻二シルリングの金を與へて返へし遣りたり右の始末にて余等は十分に試驗を爲すと能

ゝざりしが先づ其の時の有樣ゝ右の如くなりき

若し深く疑ひを懷きて右の事情を判斷すれば彼女の用ゝ供すべき若者を撰じ先廿名若しくは三十名雇ひ置き是等をして毎夜替る〳〵入れ違ひゝ受驗人たらしむるものなるやも亦た知るべからず或ゝ彼女が試みゝ豫じ先其の術を施し其の力の能く感ずる者丈け撰みて之と契約を爲し置きて見物人の前ゝて之を施すものあるやも亦測るべからず多分右の兩樣の外ゝは出でざるべしと思はる何人と雖も十分右の力ゝ感ずるものゝあきゝ明白なる事實なり

如何ゝ物好きゝもせよ同じ受驗人が毎夜無臺ゝ現はるゝは兎ゝ角怪しき事柄ゝして其の力の不十分なるを証するゝ足るべし右ゝマダム某と云へる女の力のみゝ就て斷案を下したるまでゝあり然れども廣き世間には如何樣の事あらんも知れざれば世上のメスメリズム、スピリチウーアリズムゝ概して皆な右の如しとは云ふべからず其の後彼地ゝて人に逢ひ偶ま此の話しゝ推し移る時其人〻の話しを聞くゝ其の力ゝ感ずる者も稀ゝはあることなりさりながら十分ゝ感ずるゝはあらずと云ふ彼地ゝ遊びし人の中ゝは定めて右の類を見分せし人もあるあらん余等が出逢ふたるは右のマダム某一人にして其の他は不幸にして之を實驗することを得ざりしあり

●問　彼地の人は煙草を嗜む由ゝ聞き及びしが其の樣ゝ如何

●答　先づ倫敦を一例ゝ引て申さゞ如何にも煙草を嗜む人は澤山なる樣なり去りゝゞら余等の如き他國人が倫敦市中を彼方此方ゝ徘徊して見受けたる所ゝ據れば卷煙艸をふかしながら往來途中を歩き居るゝ紳士に少なく概して下等社會の者ゝ多し就中大なる雁首に一杯烟艸の滿ちたる煙管をくゆらしながら歩き居るゝ大抵下等の職人に限れるが如し又或ゝ鍍物製の白く長き煙管を咬へ居る抔は別して職人中に多し途中咬へ煙管ゝて歩くゝは倫敦巴里共に極々下品なる人物ゝて身元善き紳士は稀ありと云て可なるべし且つ倫敦抔にては中以上の紳士ゝて出入共ゝ手馬車を用ふる人は格別なれども其の外の或は滊車或ゝ乘合馬車、鐵道馬車等に乘る者は先づ煙草を吹はゝ方多し尤とも滊車ゝは別に喫煙室の設けあれども乘合馬車、鐵道馬車等ゝて一切煙草を禁じ居れりさるからゝ途中烟草を喫ながら歩き居るゝ馬車抔ゝ飛び乘る時ゝ忽ち之を捨てねばならぬ次第なり右の如く或は喫み或ゝ捨るの不便あるを以て途中烟艸を吹ふもの自から少なきゝのと見へたり

倫敦ゝて先づ良品と云へるゝ葉卷煙草(シガー)及び紙卷烟草(シガレット)なり又た大なる雁首ゝ煙草を詰込みプカリ〳〵とふろすゝは先づ品柄の惡しき方なり自分の書齋抔ゝては斯る

大煙管を用ふるものあるも知人の家を訪問する時抔又は餘りに見掛けざる所なり又た價の上より云ふも葉巻烟草はなか〳〵高價あるものゝて一本十二三錢乃至廿錢計りなるものは通常なりされば貧人が之を嗜むは甚だ不經濟と謂つべし之と比すれば大雁首と詰込む烟草の方甚だ廉なりと申すべし刻煙草を紙に拈り込みて紙巻煙草と爲し之を喫むは改りたる風抔にて多く見掛けざる所なりさりながら右は甚だ廉價なる故にや到る所の店先に陳き居らざるなしされば相應に身分ある人も之を喫むと見へたり

日本に歸り見れば西洋煙草大に流行し居れり蓋し二三年前と比較して著しく進歩せしものは西洋煙草を吹ふこと、思はれ實に予輩をして驚かしめたり今斯く日本に西洋烟草を用ゆると流行する上からは彼地の烟草に關する風儀を日本に運び込む人も亦た甚だ必要なるとあるべし是迄の日本の烟草あれば其の薫りも強からぬ從つて烟草を好まぬ人の傍にて之を喫むとも左迄先方の迷惑には非らざりしが西洋烟草は之に反し概して其の薫り甚だ強く烟草を嗜まざる人に其の烟と云ひ薫と云ひ甚だ難澁あるものと謂つべし彼地にては何れの所にても不遠慮に烟草を吹ふことを許さゝるの風儀あり是れ必竟煙草を嗜まざる者をして不愉快を感せしむるの恐あればなり右の最と然るべき風儀と申すべし日本人にして西洋煙

草を用ふる程なれば此風儀をも採り用ひて煙草を嗜ましざるものに迷惑を掛けざるやう致したきとなり尤とも紙巻煙草の方は左程甚だしからざれども葉巻煙草に至ては煙草を嗜まざる者の迷惑すること少なからぬ此等の人に對しては少しく遠慮ありて然るべきこと、思はる

英國抔にて煙草は男子の嗜むものにて婦人は一切嗜まざるを嚴しき掟の如く者へ居れり薫り強き煙草を喫む時は自から厭ふべき臭氣を身に帶るが故に婦人にして其の紙巻煙草の其の心を亂らすものゝ之を忌み嫌ふは當然の事と謂つべし譬へば日本の婦人が腥臭を厭ふて葱類を忌み嫌ふに異あらず若し西洋の煙草にても日本の煙草の如く其味軟かにして薫り少きものならんには彼國の婦人と雖も之を嗜むの風俗を生じたるものならん彼地の婦人、日本の婦人が煙草を喫むと聞く時は驚いて打ち笑ふと往々之あり然れども右の煙草と云ふ名のみを聞より打ち驚くものにして其の實際を知らざるものあり又巴里抔にては紙巻煙草の其の味軟かなるものゝ隨分婦人にて之を嗜む者少なからぬと云へり若し其の薫り輕く味軟かきものならんには之を嗜むは決して怪しむへきことに非らぬ日本の婦人が煙草を嗜むも蓋し之が爲めなれば左迄非難すべき程のことにて非るべし英國にて婦人の勢ひ最も強きが故に婦

人の前よりは其許可を得ざれは何人と雖も喫煙するとなし但し日中晝抔よりは煙草を吹ふもの婦人ゐ遠慮すると甚だ少き樣よ見受けたり

問　芝居の事は一應大畧を承りしが尙は詳細の模樣は如何

答　當節は日本にても芝居改良抔と芝居の事は世間の談柄とあり居るが故に少しく詳細の處を述んに嘗て記したるが如く彼地にも芝居に色〻の種類あれば一寸之を我國の芝居と比較しては言ひ易からざる場合あり然れども今ま先づ日本にて盛んに行はるゝ通例の芝居なる者と粗ぼ同じ種類のものと引き來りて双方の異同を示すべし尤も余等は日本の芝居に精はしからざれば道具立、所作事、其他の名稱に至ては專門家より之を觀ば必らず不都合ある處もあるべし去り乍ら先づ一通りの事を左よ述ぶべし

東西興に人情の左して異りあきは實に爭ふ可らざる者にして我が芝居と彼の芝居と善くも相似たる所あり其の一例を擧ぐれば我國にてダンマリ抔稱し賑やかある處より俄かに變じて寂寥たる暗中の摸樣となるに至ては其の闇くあると共に幽かに沈みたる樂き音色の三味線とありチヽ〳〵チン抔と寂しき調子を見するとあり彼芝居にても三味線をこそ用ひされ是と同樣に如何なる樂器なるかは知らざれども明闇俄かに變じて暗中の光景となる時は

亦た微かにチヽ〳〵チンと寂しき音色を奏でるとあり是等は双方興よ幾ど符合したるものと云ふべし又た我芝居の彼より勝されりと覺へられ彼に無くして我に有る所のものは床の淨瑠璃の仕組なり其の一例を擧れば我方に在ては舞臺にて喜怒哀樂或は沈默の所作を演するに方り當人は勿論無言なるに床の方よて三味線ゐ合せ文句を語り舞臺に動き居る當人の胸中を說明すると通例あり然るに彼方よては一切斯る仕組之れなく事を叙し或は當人の所思を見物人よ示すには當人が獨語を述べ立て、自ら之を說き明すとなり之を區別すれば我方は當人が默して傍らよ說明者を置き之を述るに彼方よては當人が自分自身ゐ獨語にて之を演說する譯なり此の區別は則ち我芝居と彼芝居との間に大なる相違を生せしめたりと思はる、所多し彼方に在ては舞臺にて動く當人の外は傍らに說明者なきが故に當人が胸中を說き明そ獨語の處は最も大切ある關目をなし其の文句抔は最も作者の力を要するとなり又た役者の之を演說するにも其の言廻しに大なる巧拙あり皆な茲を競ふて骨を折るとなり故よ然るべき演說風の文句は自ら彼方に多くして我方よ少あくあるの傾をば生ぜべき筈の譯なり

右の獨語と淨瑠璃との區別は著しき彼我の異同なるが果て其孰れが優り孰れが劣ると云ん

、双方共に各々一得一失にて場合に因ては當人の獨語するも似合しかふず矢張り日本の如く傍らに説明者ありて文句を述べて之を説明する方の優れる處もあり又た彼方の如く當人自から説明して傍らより他人の説明せざる方の優れる處もあり一概に一方のみ必ず優れりとも難し左れば逸やりて彼の眞似のみあるも如何あるべき歟先づ淨瑠璃の仕組抔は日本の劇場中に自然と生じ來れる一種の妙味なれば之を有そるも然るべしと思ふ向も定めて我芝居學者中に之あるべきとなり日本にても能樂は彼の芝居の如く當人自身にて萬事を説明そる仕組にて先づ舞臺に現れ出ると「是れ義經殿の御内にて忠信と申し候」抔と當人自身に名乘り出で萬事胸中を獨語するなり稍や彼の芝居に似たる趣と云ふべし蓋し我國の普通の芝居と元と或る人形芝居なれば一方の淨瑠璃の説明者ありて人形が身振りを爲すのみありし仕組の世と共に推移して遂に役者の動く今日普通の芝居にも其典型を傳ふるに至りしもの歟兎に角に此の一事に我は彼に劣ざるのみなふず或は優り居るものなるべし

又我國には出語りとか稱し所作事を爲す節には音樂人一同異樣ある上下抔を着け舞臺の上に現れ列ありて音樂を奏するとあり斯る事も彼方の芝居には一切之あきとあり尤も嘗て記せしが如く音樂人は十五名二十名若くは三十名打揃ひ黑の禮服を着け白襟にてソレ〳〵樂

器を携へ舞臺の下土間の最先きに出席し見物人と同樣舞臺の方に向て並び居るとあり故に舞臺より見物人に對して云へば先づ第一に音樂人其の次に土間の見物人並び居る譯なり

●問　尙ほ所作事等に付き彼地と我國との芝居の異同は如何

●答　我國にて所作事とか稱する妙なる身振りは彼方にては幾んど之なきものなり畢竟するに所作事、物語、抔は傍らより意味を説明する淨瑠璃に合せて出來したるものあるべければ淨瑠璃なき彼國に所作事あきも亦た當然の次第あるべし初め彼地の風俗に慣れざる間は芝居の所作も尋常人の動作も差して違ふとあく彼地の芝居は言語動作與も幾んど平常の有樣に同しと思ひ居たるとなりしが少しく土地慣れて其の一般の言語動作を呑込むに付け始めて芝居と矢張り芝居にて其の言語動作は又た一種の振合あり世間平常の言語動作とは大なる相違あることを知るを得たり何れの國も芝居と芝居にて子供だましの如きものあれば普通一般の言語動作にては面白ろからす隨つて是非とも一種格段なる振合を生せねばならぬ筈なり去り乍ら若し之れを日本の芝居の言語動作か尋常一般の言語動作に對する懸隔に比すれは彼地の方は尙ほ兩者の間柔の相ひ近き方あり彼地にても「芝居風の身振擬色」とて笑ひ評する詞に用る程のことあり如何に眞に近く見もればとて芝居は自から一種の芝居風わ

るものなり

但だ我に在て彼になきものは足柏子の一事なり則ち拍子木よて一と足二た足の足に合せかタリ〳〵と板を敲く一事あり斯る事は彼地の芝居にては一向に之を見しとあし我が右の拍子木に慣れし目を以て彼地の芝居を見る時は大よ拍子抜けして面白かゝぬともあり然れば日本にては右の拍子木も存し用ひて可あるべき場合も之あるべし就中立廻りとか唱へて毋闘を爲す場合抔に之力足の拍子なくては面白からず芝居學に拙き余等の者よりするも場合に因ては矢張り柏子木の雛しある方然るべく又た斯る雛しの用法あるも進歩の一に算ふべきものあるべしと思はる升平の長く續くは一般に文學の事をば進歩せしむるものなるが徳川氏三百年の升平は芝居の進歩に之非常なる助を與へたるものあり幕府三百年の治世中何物か最も捗りしやと問へば蓋し芝居程著しく進歩改良せるものハあらざるべし然れば今日我國よ用ふる所のものは一概よ不都合なるものゝとみて非ずと知るべし

立廻りとか稱へて斬り合組み合抔の事を此較はるよ我方は飾り多く彼方ハ飾り少く彼ハ眞に近く我は如何ゝも餘程よウ〳〵數思はるゝあり例せば彼方にてハ劍を拔いて打ち合ふも二た打ち三打ちにて直ちよ勝敗の定ゝと多きよ我方よてハナカ〳〵二た打ち三打ちのと

に非ず長きものは五十合百合にも至ると少あらず然れば孰れが眞よ近きと問へバ彼よして我よ非ず然れども芝居は元と是れ芝居なれば若し芝居として眺めんよハ肝腎ある人物が只二た打ち三打ちよて勝負を定むるは餘り本意なく見へて面白からぬ場合もあり然れは我方の立合ひの間の長きも亦た一興と云ふべし兎よ角芝居は芝居よて慰み物なれバ眞僞を問ふよ及ばず只だ場合に因て面白ければそれよて宜し餘り猥褻の事ハ少き樣注意し又た慘酷の事あき樣よ愼むあらば先づ議論は其處までであり其れより以往は只だ見物人の興に入るを勉むれば最早や芝居の役目は濟みたるものなり何も六ケ敷く云ふよも及ばざるべし然れば立合ひの長短も飾り多きも飾り少きも兎よ角よ見物人の目に面白さが然るべき歟

問　彼地の芝居にて慘酷の所作をば愼で避るとの事は加何

答　彼方よては上等の芝居程慘酷の事をは甚だ愼み之と見物人の目よ現はさゝるあり例せど然るべき人物が打合て一方は小腹を突かるゝ休ありとせんよ其突れたる方はメザ〳〵〳〵とヨロメキて傍の柱壁抔にも寄り掛る拍子にパタリと倒れ其の柱の蔭よありて最早や姿を見へぬなり苦痛し乍ら死する有樣抔は多く見物人よは觀せぬとなり又た餘義なく血の出せしを現ずす時よても只白シャツ抔よ一二點の血痕を示す迄あり從來日本の芝居にて最

後の時赤色の眞綿抔が腰の邊より垂ら下り又た其口中よりは血を噴くあゞに此すれば實よ雲泥の相違あるなり總体に彼地の社會は行儀正しく猥褻慘酷のことは言語にさへ慨しむ程の世の中あれば芝居抔も斯くあるべきと怪しむに足らず又た日本の社會の都べて無作法不行儀よして士君子と雖も衆人廣座の中にて直ちに歌舞の物語りを爲す等の不取締りある世の中にては芝居も夫れ相應に無作法千万なると多きも亦た餘議なき次第あり但た後來は今少し改良したきものと思はるゝあり

又た彼の芝居には日本抔て云はゞ花道あるものゝし只た舞臺の左右ある兩角の口より出入を爲すのみあり日本の芝居學者中よは花道の事よ付て大議論ありとう聞しが右の花道も一種の物抔て是も德川氏升平中よ我芝居の進歩したる一証あるへし遠方さして去る有樣或は遠方より來る有樣抔形容するよと此の花道の有ると無きとは大なる興味の淺深あるとなり然れば我々と不巧者あがら他日然るべき大なる劇場の出來するとあるも此の花道と日本の芝居よ一種固有の物と去て存し置くこそ却て外客あどの目よは賞美せらるゝことあるべしと思ふ

問　彼地の役者、舞臺、等の有樣は如何

答　日本よては女は女のみ一座男は男のみ一座抔て一座を興行するとあれども彼地にて之二と芝居よ男女混淆して男役ハ男、女役と女、よて之を務むる故人情を寫すよと甚だ都合好きと多き去り乍ら女役者と云へる者と隨分世間の風儀を亂るとよて女役者の爲めにと種々の事を惹起したるとも彼地よハ澤山之あるなり然がし是も強て咎むべきとは非ざるべし若も後來我國の芝居よ男女を打混ぜると爲せバそれよても宜しかるべし年老ひたる男が加何よ粧ふとも女の身振りを爲す處抔は餘り見好きものに非ず孰れと云へば女の役は女役者の勤むるこそ興あるべし其初めは我國にても男女打雜りの由ありしが女役者の風儀を亂ると甚しきより幕府の爲に禁制せられ遂よ今日の如く男子のみの世界とは變じたりと云へり左もありしならんと思ハる

何事に限らず芝居の世界よて彼地の方優れること多き中よも免づ劇場の建築結構の綺麗なるは勿論其の舞臺道具立萬端の行屆きたるは又更らよ美事なり日本の畫よ比すれば西洋風の油繪は殊よ眞よ迫るの摸樣あるは世人の知る所なるが其の油繪よて妙技を盡して描きたるもの多ければ眞物よりも一層場合宜しく思はるゝあり一寸見受る所よては家屋抔の如きものは其の骨組は木或は鎖よして其の上を切地にて張り之に油繪よて壁は壁の如く彫刻物

は彫刻物の如く描きたるもの多し又た樹木抔い其の幹だけは眞物を用ひ其の枝葉をは切地に描きッを切ッ抜きて着たるもの多し是は造作もなきとながら大ょ趣を添ゆるものょて粗末千萬ある造り細工の技業が見苦しき迄ょ幹ょブラ下ろり居る抔ょ比すれば寧ろ枝葉を描きたるものを切り抜きて着けある方甚た視勝さりせるなり

道具立の變る時の仕掛ょ色々あり或ょ左右ょキリ〳〵と開きて改むるものあり又い都て空中ょ引揚けて景色を改むるものあり蓋し是等の仕掛い其建物の大小性質ょも關するとなるべし

管て一とたび廣狹を記載するょ方り彼地の大なる芝居ょても其の正面の廣さょ新富座の劇場程あるまじと記し置きしが今日より考ふれば大なる誤りにて彼地の物は何に因らず規模宏大なるが故に狹しと見へたるものも其の實は甚だ廣きとにて歸朝後篤と彼我の事物を考合し比較し直す時は最初の想像の相違そると少からず舞臺の如きも則ち其一にて少し大なる舞臺の正面の廣さはナカ〳〵新富座抔よりも遙かに廣きとなるべしと思ょる眞物い違はぬ二頭率きの大馬車或は荷車抔がサッ〳〵と何の障りもあく舞臺を往來するを見れバ餘程廣大あるものあッ

●問　彼の芝居の馬抔は如何又さ其他の事ふて我との異同い如何

●答　馬ょても車ょても通例は先づ眞物を用ひざるとなし馬抔も定めて善く馴らしあるものと見へたり去り乍ら孰れの芝居ょても舞臺に接近して見る時は其舞臺の上の穢きさい蓋きたり他の部分は先づ飾り粧ふか故ょ左程ょもあらざれども只た舞臺の上のみは殆んと地面同樣の有樣あり蓋し我方ょては舞臺の上ふ坐はりもあせい蹴つきもあす次第なるか爲ょ自から之ょ注意して光澤あるまでょ拂拭も行屆き居る譯なれども彼方ょては元より斯る事あきが故ょ斯くは汚れ居るものあるへし然れとも兎ょ角に他の万事に比較して其の穢あきには驚きたり

佛蘭西、伊太利、の境ふて千戸計りの小都邑ょ宿せしとありしが別に知人とてもなく客窓蕭索甚だ無聊に堪へ也折しも宿屋の主人の話に今夜ょ芝居興行あるとのとあれば田舍芝居を一見するも面白からんとて心に輕蔑しあがら其の場所ょと赴きたり云は、一山村ょて勿論繁華の地と稱する處ょもあらぬあれとも倘は其の舞臺はナカ〳〵ょ美事なるものょして新富座抔の企て及ぶへき所ょ非す其他の事も万端之ょ應して一切整ひ居たりしは誠ふ案外せる程ありしか但た田舍廻の役者のとあれば其所作は感服せさると多かりしが中ょも下稽古

も不十分なるゝ故往々セリフを忘るものと見へ傍らより之を教ふる者附き添ひ居るとなり一寸正面より見たる所の舞臺餞の中央の處丈恰も日本にて子供を寢かすに用ふる母衣蚊帳と云へる者の如き黑く圓く西瓜を半截して伏せたる形の蒲鉾なりの物あり其高さ二尺計り廣さ三四尺もあるべき乎此の蒲鉾なりの物は見物人に向へる方丈圓くなり居り役者に面せる方は切り落しになり居ると見へ彼のセリフを教ふる者は此の陰より口上を述ると役者は之を口に移して舞臺にて動くなり尤も伊太利語なれば余には其義丈一々解し難かりしかも兎に角に女役者抔が何かセリフを述ふへき順序の時に先つ例の蒲鉾なりの中より低音にて物言ふ聲漏れ役者は之を述りて述ふるさま頗る見苦しく覺へたり去り乍ら日本の黑坊が背後に附き居るに比すれば或は寧ろ此の方を優れりとすべき乎後ちに聞合すれば舞臺の上に右の蒲鉾なりの物あるは佛國にては珍らしかゝぬとありと云へり然れとも倫敦抔にては通例の芝居にて一向見掛けさる事共なりしなり

●問　一体の芝居の趣向は彼地と日本との異同如何

●答　芝居の種類い數多き故に其の趣向筋書を比較するも亦た甚だ容易あらず嘗て粗ぼ申せし如く芝居の種類には色々あり其の言語都て歌を以て演ると日本の能の如きものをオペラと名付く又た言語其他のセリフい歌の如くせずして通常の辭の如くするものをシエター。と稱す右二派に屬するものにして種類の異るもの甚だ多し又た芝居のシエターの中にも純正のものと滑稽のものとあり左れば日本にて演する芝居の種類は彼地の種類多きに及はざるものと云ふべし

●問　あらゆる種類の芝居を籠め其の中にて最も面白く思はれたる芝居の有樣を承りたし

●答　余等は甚だ芝居の事に拙く日本にても三四年に一度見物するかせぬの人物なれば甚だ不案内なから最も短くして最も面白かりしと感じたるは左の如き筋の芝居なりき尤も左の芝居丈に只た一と幕ものにて有名なる女優某の爲に當時英國にて有名なる作者ギルベルトが之を組立しものゝ由今其の大要を畧記せん但し其の筋は都て歐洲の中世の有樣にて佛國に起りたる事柄と知る可し

幕開く時は美事なる上等社會の住居にて宏大なる一と間あり椅子、卓子、は勿論窓掛其外一切の飾り付けは幾んど貴族のとも思はる程にて何不自由なき暮しと見へたり偖て奥より一個の美人盛飾して出で來る此の女子は當家の主人にて當時世に時めきて持はやさるゝ有名

なる女優あり衣裳より腕輪、髪飾、よ至る迄一切善を盡し美を極め金よあかして飾り立たる姿あり此時又た一人の女子出て來り一二の問答あり此女子は主人の妹よて姉の技藝の世人に賞翫さるゝより何不足なく暮すよかて、加へて毎夜の如く當佛國の許多の貴公子此家ゑ來遊せらるゝ此の上もなき榮華と云ふべし云々との口上あり其時主人なる女優い「好き事もあり惡きこともあり殊よ數多き貴公子の中よも御身の知らるゝ彼の貴族某氏の如きい我身よ定まれる夫あるを知り乍ら情を通せんとして附き纏ふ蒼繩さよ去り乍ら若し一旦よ之を拒絶せは盛威ある彼の惡貴族は忽ちよ我身に仇し不幸を來すも料られずと今日迄い毎夜の如く其の機嫌を損せざる樣操りて過するものゝ吾が心中の苦しさは御身も推量し玉ふべし餘處外より之を見ば吾か身の上を榮華ありと羨む者もあるべけれども裏と表は相違ありて苦しきこと多かるものを」と思はゞ獨り嘆息す其時妹い「今夜も亦た來賓あるべし坐敷の用意を爲し置かんくと二階へ昇る暫して引違へに入來るは女優の夫某あり其妻なる女優向ひ「御身も定めて疾く知りつらんが今朝些ゝの事よりして衆人稠座の其中にて彼の御身よ戀慕する惡貴族の爲め言ふ可からざる非常の辱めを受けたれゝ我は即座よ對手を打果し恥を雪んとも思ひしが對手い名よ負ふ貴族よて左右從者も多ければ迚も本意を遂する能

はゞ若かゝ機會を待たんよはと無念おから涙を呑て歸りしゞ堪と一とたび決鬪して此怨を濯らさては我は以後世間よ立つべき面目あし今は早や死を決して彼人を打果さんと覺悟せり思ひ合たる二人が中も早や哀別の時至れりと覺るぞかし」とて涙を含み物語れば之を聞くより女優は打驚れて力なく考へ居る此時其の夫い復た女優よ向ひ「察する所今夜も亦た彼の惡貴族ゝい此家よ來り遊ぶべし然れば御身何卒して我よ引合せ呉れよ我より決鬪の所望を爲さん只た肝要あるは堪が多數の從者をして決鬪の場所よ近つかしめずして只た兩人雌雄を決するにあり吾が手練い勝ぐれもとも人雜せもせず戰ゞ本意を遂する事もやあらん此義を御身能くすべき歟」と聞いて女優は思ひ込みたる氣色よて「左樣なる事のありと早く知らば無事よ計らふ手段もあるべきよ今となりては最早や詮なし止め給らすとも良き入れ玉ふまゝ左らば潔よく勝負を試み死生の運を天よ任せ玉へ我身を畢生の力を盡し何とか思慮を運らして彼の貴族の從者をば其の主人より引離す樣に工夫せん」と意を決して答ふるうちにも愁然たる有樣は面に顯れて掩ふ可らず見も

問　芝居筋書の續を承りたし

答　女優の詞を聞くよりも夫は太く打喜び「シテ我身は如何よして彼の惡貴族と相見

るへき歟」と云へは女優は「左れべあり櫻上よりて遊園なはある頃よ我身用事ありと伴とり此座敷よ降り來らば彼人も亦た我身を尾い引續きて降り來るべし其の時御身は此の隣室より出來り思ふか儘よあし玉へ」と云へば夫は益々悅ひて「左らば何分賴み入る必らす事を誤り玉ふな」と辭を遺して名殘り惜し氣に隣りの室よ入り行くアト目送て彼の女優は打誘れたる思入れありて暫時思案よ暮る丶体あり此の時取次の者出で來たり「貴族某々君御來遊に候」と告れば女優と慌て丶涙を拭ひ形を正して待受け居る程なく入來るは五六人の貴公子まて孰れも佛蘭西中世の支度ふて劍を帶ひ鬘を戴き膝よ達する計りなる靴足袋を長く穿ち各々六七名の從者を率ひ此の席に進み入る女優は恭しく禮をなせは貴公子等は又た之を退へし」相變らす端麗ある御樣子を見て皆あ〳〵滿足したり」と述れば女優は高貴の御方よの辱けなく來遊せらる丶の幸榮を述べ此の處にて暫時は何くれとなく物語り居る內復た取次の者來り「貴族某君御來遊あり」と案內す之よ連れて入來るは則ち彼惡貴族の某ふて其の身体は肥滿り其の容貌逞まし早や見物人をして面憎く思ひしむる樣よ打扮せり此の貴族と女優よ對し挨拶終り少しイヤ〳〵の口上抔ありて前の衆貴公子と茲よ一座となる此時女優は來賓ふ向ひ「イザ二階の廣間にて御饗應仕らん」と案內すれべ諸人は從者諸共に皆ふ其の地

位の高下よ從ひ先後の序を整へつ丶女優に導かれ二階の廣間よ昇り行く

暫くして女優は二階より下り來り始し此席ふ憩ふ內彼の惡貴族某は果して女優れ跡を尾け又た此席よ降り來りそれより女優に向て其の愛情を述る種々の仕打あり女優は夫ある者なれはとて体よく會釋し居る時を見すましサッと扉を押し開き顯れ出しい女優の夫「如何よ貴公子ヨモヤ忘れは仕玉ふまじ今朝衆人稠座の中よて某に對しヨクも彼程迄の辱めを與へ玉ひしぞ縱へ他位と異るとも誰か其の面目を重んせざる者あらん思ひも掛けぬ此席よて貴殿ふ對面なしたりしい天の某を惠む所是非とも貴殿よ對して某の滿足を要求致さねばならず御覺悟あるや如何よぞ」と樣子を變へて詰め寄れは彼貴族は苦笑ひし「扨ても仰々しき其の辭若しも金錢よても所望とあらば如何程にても參らせん左樣ある囉呼はりは自から損害を求むる者なり料見あつて然るべし」と太と横柄にアショへば女優の夫は赫と急立ち「如何に貴族あればとて他人の名譽面目を傷るの自由ある可からず金錢抔とは事笑し縱へ貴殿は如何樣よ遁辭を述べ玉ふとも此の儘よは濟む可からず刀に掛けて名譽の滿足御承知あるや如何よぞ」と其の傍らよ詰め寄れば身躰長大よして相貌逞ましき彼の惡貴族は小賢なる小童奴と云はぬ計の容躰よて斜めよ此方を打眺め「刀よ掛けて滿足とは笑止千万去り乍ら强

て所望とあるならばロシ〳〵拙者も承諾せんイッ何時にてもあれ汝の求めに應すべし」と聞くより此方は尚ほ詰め寄り「イッとも云てす只今此處にて」。「今と云はゞ今にも命を斷ち呉れん我等も今こそ猶強あれ」「彼方の庭こそ」。「左らば勝負の支度せよ」と兩人戸を開き外而の庭ゑ立出る

問　其續は如何

答　女優はアトを目送り乍ら此室の扉をピタリと閉ぢ夫の死生如何よゞやと愛は面に顯はるゝ折しも樓上なる衆賓及び彼の惡貴族の從者等はドヤ〳〵と降り來たり主の女史は孰れゑ在すぞ皆な〳〵待詫び居るものを」と其の邊ゑ坐並びて「扨も某殿には（惡貴族を指す）何處へ行れたるや」と云ふを打消し彼の女優て「只今用事有とて他の室ゑ入らせられたり最早や間もなく此室に御返りあるべしイザ何事をか樂みて今宵を過させ玉へずや」と云ふは今ま扉一重を隔てたる彼方の庭ゑは最愛の夫が貴族と死生の決闘若しも此場の人々ゑ様子をソレと知られなば必らず助太刀に赴くあらん若し左もあらば多勢に無勢夫の命て亡きものを如何よかして此場を濁し一個と一個の決闘を首尾好く果させ終らんと心の裡の巧をば知る由もなき他の人〳〵て「左らば例の如く主の女史の舞の一ト手を所望せんは如何に

ぞ」と一個が云へば大勢か口を揃へて「然り〳〵之ゐ上超す慰なしイザ立せ玉へよ」と勧めらるゝを好きシホに女優てッッと立上り有名なる芝居中の或る一の所作事を擇み或歌ひ或は舞ふ折しも聞こゆる刃の響、聽き耳立る此場の人〳〵、ソレ聞かしてい大變と女優て壁を張り上けつゝ諧ひに紛らし遮れ共アッと魂消る手負の聲「コゝ何事」と立上る一座を止めて「何事にも候いず先づ所作事を御覽あれ」と妙技を盡して人〳〵を引留めんと心の憂千万無量の苦は知る人もなき我身の上窓の外ゑて夫の死生、刃の響、傷手の聲、敵を打ちしろ聲れしかと氣遣ふ胸を押し隱し笑ひ興する所作事にて敵の從者を釣り留て夫の存意を遂けしめんと二ッゑ係る一ッの心乍ちにして戸外ゑ在り乍ちゑして所作事ゑ在り舞ふ手踏む足亂れんとし乱しもならぬ一呼一吸復も聞こゆる刃の響、アット叫び魂消る聲、「コて只事ゑ非ぞ」と在り合ふ人〳〵身を起す「そハ遣ては」と立ち塞かり心も亂れ氣を狂乱最早や手足の定まら、ぬ迄息を絶へ〳〵に身を械ゑしつ仍はも人〳〵を遮らんと推隔つる折しもあれ扉を開て入來るて其の夫にて右の手には劔を提けかねて決闘の式の如く上衣チョッキを脱き去て白シャッ一と重ゐ血を帶び乍ら呼吸忙はしく駈け入るを「本意を果し玉ひしか」と叫びも敢へず取縋る女優を右手に抱きとめ乍ら「我妻本意を果せしぞ我も重傷を負ひたれども敵をハ見事

に撃ちしぞ」と云ふを聞くより此場の人々「扨ては事こそありたれ」と柄に手を掛け一同に立上る一方にて女優と「アラ嬉や」と云ふ聲與に脆弱き女の身を以て今まで胸の苦痛をおさへ敵の從者を釣り留めんと笑ひに紛らす所作事に其腸も寸斷せしと見へ今や本意を達したる夫の顏を見るよりも其の心の弛みしゐや遂に夫の腕に倚れる儘悶絶して命を落すにて幕終る

右の芝居は一と寡物作ら如何にも能く仕組たるものと感心せり只た大切あるは右の女優の役目にて夫の死生を憂へつゝ心中に保ちかぬる悲を懷き乍らも其の面には色をも見せず笑に紛らし面白さを感せしめ敵の從者を引留めんと心を用ふる有樣と實に見物人をして手に汗を握らしめたり其の所作事を爲す内にもアッと叫ぶ聲或は打合す劍の音の更る〳〵其所作事の間に聞もる抔と實に見物人をして危あき心地を感せしめたりセキスピーア。シルラー。ボルテール等の如き名家の作物に始く措て論せず近來の作物にては蓋し斯くの如く簡單にして斯の如く感じ深きものは先づ余等の見物せし内にては之あかりしあり有らゆる事柄を見聞する爲に彼地に遊びしとあれば余等も芝居とあれば大抵見物せざりしはなき程あるしが其内にて目に留りたるは此の芝居なりき

鳥類の事

歐羅巴にてナイティンゲールと云へる鳥あり歌人の句にも入り文人の筆にも載せられ最も文學社會に緣の近き風雅のものにて例せは世事を拋ち田舍に退隱する決心を爲す時の詞あるは「溪水の潺湲たる響こそ世間第一の妙なる音曲にてナイティンゲールの囀る聲こそ世間第一の妙なる唱歌なれ、此の物憂き世を樂て、彼の溪水の音曲とナイティンゲールの唱歌とを樂しみあん」抔と云へること往々有り又少こし都びある辭を用ひ善く歌ふ者の聲を形容する時抔にも動もすれば恰もナイティンゲールの聲の如し抔と話すなり左れは余等もナイティンゲールは如何なる鳥にて其聲は如何なる者あるや聽かまはしと心掛け居たるに此鳥は寂寥たる場所に來鳴く者にて何分都會近傍には見へず唯た時にして之龍動抔の近郊の寂寥たる樹木の間に於て鳴く事ある由なるに而して其鳴く時刻は夕方より夜に掛け妙音を發する者にて晝に囀ることなきと云ひ又聲のみ聞へて形をば容易に人に見せずと云ひ如何にもして聽きたく覩たきと心掛けたれ共遂に目にも耳にも掛らざりしは遺憾なりし

右の鳥は日本の辭書抔には譯して杜鵑と爲す者あり或は黃鸝と爲す者あり故に彼地に遊びし邦人中にも各〳〵誤解して等閑に唯た日本の杜鵑或は黃鸝あるかの如く誤り思ふて過ぐる

者あり然れ共其實は杜鵑よもあらず又た黄鸝よもあらず併し右の兩譯の誤るも其理無きよあらず何となれば肇囀せずして夕方より夜よ掛け囀ずる所は杜鵑よ似たればなり又其形の小なると聲の好きとを考ふれば黄鸝よも似たればなり左れば杜鵑と云ひ黄鸝と云ふも强が ち咎むべきよあらぞ

彼の有名なるケンシントン博物館の別室よ禽獸木石のみ集めたる一の廣大至極なる別館あり

二三年前よダルイン氏の大理石像を飾付けたるは乃ち此室より因よ云ふ此石像は凡そ等身の長よて余等の遊びし少し前よ撒覆の式を行ひし由なるが然ら其像を見るに如何よも人間社會よ一大眞理を發明し能ふ丈けの能力を有するが如くよ見受けたり右は崇敬の心よりて斯る感を與ふる者なるべし英人の宗旨家抔は同氏の顔色は猫や猿よ似たり其子も亦た同樣なり人猿同祖の說を唱ふるも無理ならぬ事なり抔と平常惡口よ言ふとあるが同氏の眞を摸したりと云ふ右石像の容貌を見るよ何も去程猿よ似たる譯よもあらぞ日本人抔の中よ之を据へ置かば實よ逞しき顔色あり

此館よは世界中の寒帶熱帶温帶瞿地よ產する禽獸の類一として有らざるはなきものあれば

余等はセメてハ彼のナイティンゲールの形ありとも此處よて見んものをと一日其の穿鑿ゆ往きたるよ彼の館内の樓上にて殘らしき有名なる小鳥數十種を恰も生けるが如くよ飾付け其好で遊ぶ樹木草石抔よ載れ〳〵取添へて備へ置く所あり此中にてナイテンゲールの生けるが如く示しあるを見るよ鳥の大さは恰も黄雀と同しくして其毛色も亦黄雀と同じ唯た黄雀よ比すれば少しく黑みを帶びたるが如き左れと囀と云ひ全体の恰好と云ひ大樣は毫も黄雀に異ならぞ左れば日本の飜譯者が之を黄雀と誤りしも又無理あらぬことあり而して此鳥の夕方より夜に掛け妙音を發するは稍や杜宇よ似たる者あれば杜宇と誤りしも亦無理あらぞ要するよ此鳥は支那日本には其類あき者と見るべし左れば後來西洋の文學の日本よ入來り文學書類の世に行はるゝよ隨ひ日本人も度々書中にて此鳥よ出逢ふ事とあるべし然らば杜宇或は黄雀と見るは然る可ふず矢張原名のナイティンゲールとして之を視こそ然るべし又其外よ英國は勿論歐洲大陸の佛、白、地方よハ往々田野の間よ鳩の大さにて其形は日本の尾長鳥の如く羽色は全体よ黑くして腹背よ白の斑色ある者往々悲鳴するを見たり右は珍らしき鳥よ覺へたりしが博物館禽獸部の中よて考ふれば乃ち鵲なるべし日本には同鳥は餘り多からざる故斯く珍らしく覺へたることあるべし支那の北地抔よハ隨分之れ有りと見へ鵲

の字は支那書中よりては往々に見る所なり又た英國抔の冬分の畫圖の田舍の景或は雪中の景を寫す者よりは往々ロウビン(高麗鳥)を畫く者あり又英人も殊に此鳥を愛する者なるやよ見受けたり同鳥と元と野生あるべきが雪中抔よりは別て人家を便り來り人ふ訓る、者の由よ云へり日本にては同鳥は渡り鳥の部類よ屬して野鳥にあらざるが故よ余等よりは珍しく覺たり兎づ鳥類よて日本と異ありと思ふ者は前記する々條に過ぎも概して云へば一体ふ山嶽少く平原曠野多く大抵の地は開ふき盡くして園圃の如く成り居るが故よ我邦よ比すれば野鳥頻も甚だ少き方に覺へたり故よ都會の公園抔よ野鳥の來りて囀し遊ぶ抔は甚だ珍重する有樣よて新聞紙上に於て鳥類保護の論者を甚だ多く見受けふり

回航紀事

吉田熹六

余が倫敦滯遊の期限い豫ねて本年一抔か少おくとも此夏秋の交までと定め居りしとふて今年の春い日耳曼、伊太利、墺太亞、獨逸士等大陸の國々を歷訪し再英京よ歸りて綾〳〵行李を理し而後米國よ渡航し二三々月間を紐育、華盛頓の間よ費して成る可く充分よ各地の事情を觀察せん者をと者へ胸中夫〳〵宿算を立て、三冬嚴寒の逝くを待ち居りしに此際本社よりの來狀を見れば改良後の結果、非常の盛大を致し諸般の事務大繁忙にて社友は朝から晩まで目の舞ふほどよ劇はしければ海外の漫游通信も本社よ取て甚だ大切の事業なれど目下の事情より云はゝ一日も早く歸朝して社務の一方を擔任する方何よりの急務なりとて縷々事情を說て頻に歸朝を促がし來れるのみならず引續き電音を發して直に歸朝せよとの命令さへ達たれば今は猶躊躇す可きにあらずと殘念ながらも斷然意を決して歸途よ就こと、いなれり思ひ設けぬ旅立なれば余が一身よ取りてゝ云ふ可らざるの混雜を極たりしが幸よ在英朋友知己の何くれとなく親切に助け呉れたるをもて何事も最迅速ふ纏まり心置なく彼地を出立するを得たり至急を要する飛脚同然の旅行ゆへ別ふ物々しく紀行あるを綴る程の材料もなけれど亦た一つ二つの談柄あきよもあらねば左よ其概畧を書い記るして讀者臥遊の一興よ供することゝなしぬ

余が乘込む可き紐育行の郵船は十二月十一日午後二時を以て英國リバプール港を開帆す可き手筈あれば大抵の乘客て前日倫敦を發して同港よ一泊せり余も成る可くは右の手續を履まんものをと思ひ構へ居りしが十日い朝來知己の過訪するもの跡を絕たゆ夜に入りてい平素懇意よ往來せる外國人等の集り至りて別を惜み宴を開き談笑の間よ夜を徹したる程なりしを以て遂よ前日には出立すること能はゆ當日の一番瀧車よて出立すること、なれり倫敦の

名物といやか上ゑ立ち籠めたる烟霧の間より朦々たる旭光の僅かに地平線を離れて斜めに樹梢ゑ映せる曉方の景色を名殘惜しげに見送りつゝ、寵送の友人諸氏ゑ別れを告げて滝笛の響きと共ゑ倫敦を背ゑして馳せ去りたり余と同室ゑ坐せる英人二名あり皆共に同じ船あて米國へ赴く人なれば忽ちゑ懇意になり種々の物語りに笑ひ興じて時の移るを覺へざりしうち車は只ある停車場ゑ着けり右の二人は物はしゝとて近處の酒店ゑ這入れり余も共ゑ來よとて誘はれたれど辞して行かざりしが車は間も無く運轉し始めたり酒屋に行きたる二人りの英人は車に置き去りゑされしと見へ歸り來らゞ只彼等の手荷物と余一人のみ室内ゑ在り氣の毒なることとしてけりと思ひながらも詮術なければ其ま、次の停車場まで來れり車が停まるや否右の英人と大失策〳〵と叫びながら室内に入り來り前刻車の動き出せる音を聞き飲みうけたる酒も食ひかゝりたる肉も其ま、投出し諜狽たへ騒いで駈け付けたれど最早間ゑ合ゑゞ止むを得ゞ役員の乘込み居る最後の車中へ物をも云はず身を跳らして飛び乘りたり役員めゞ何かゞ〳〵云つたれども終ゑ強情を張り通去て辛ふゝて助かりたりとの物語りゑ又々一興を催はし旅馴れたる君達ずら旅中の失策はあるものを土地不案内の我々日本人ゑ縮尻のあるも無理あらゞゞと一笑せり扨て此停車場ゑては十分間、車を停めると云ふことも〻今度こそ大丈夫あり飲を直しに出掛け玉へ己も朝饗をしたゝむ可しと勧ひれども諺ゑ所謂る噎ゑ懲りて食を廢する道理ゑて彼等は痛く前敗に懲て動かゞ去らば已れ一人りゆる〳〵飲食せんものをと停車場付きの料理屋ゑ赴きたゞ食事了りて時計をあがむれば既に八分を過去りたゞ丁度よき刻限なゞと拂をすませて、もとの處に立歸り來ればコハ抑も如何何處行きけん車は見へゞ南無三大事を仕出かしたりと狂氣の如く馳せ究ぐれど尋ね當らずゾコらに居合わす車掌等ゑ問ども充分ゑ敢て呉れず進退維谷の場合に迫り如何はせんと苦慮せる折柄一人の役員向ふより來懇りたれば之を透がしては大變もりと急ぎ僕より二三志を拾ひ出し彼れの手ゑ握ちすると同時ゑ其手を捕へてリバプール行の列車は何處に在る早く案内しろとて引立たれば地獄の沙汰も何とやら彼心よく承諾し欣々然として余を其處ゑ誘いたりヤレ嬉しやと思ふ間も無く車は既ゑ運轉を始たりソレ遣てはと足を空らに馳せ付けて漸く室内ゑ飛び入りたり英人等は余が同じ樣なる轍を踏みしを見て手を打てうち笑へるも可笑しコハ全く此線より彼線へ車を移したるまでゑて別段あはてる程のことにもあらねゞ日本の鐵道あゞゝは違ひ幾十百の線路が縱横に入り亂れ列車の出入繁るが如き處に在りては一寸の出來事も不案内の旅客をまごつかしむるに足るものあるゑ況して此事

は途方もなき方角に持ち去られたることなれば余が狼狽の一方ならざりしも亦た敢て無理あらじ惣べて歐米大陸の旅行中滊車の乘り下りには別して心を用ゆること肝要なり前人の失策話は後者の鑑戒とありて便益を興ふること少からねば余は些細の事柄にても旅行中の心得となる可きことゝ務めて附記するを事とす讀者此意を諒し玉へ兎角するうち滊車はパプール港に着し乘客思ひ〳〵に散亂し余は直ちに馬車を傭ふて埠頭へと赴きぬ

壓的潮汐は世人れ熟知せる如く風涙殊に險惡にして盛夏、風死し水眠るの時と雖も猶ほ怒濤山を崩すの勢あるに況してや時正さに朧月風雪の候に際し肩を劈くの寒風は空撲つ水を激して船体の簸搖一方ならぬ秋の木の葉の風に舞ふ心地して數百名の航客概ね船暈を感せざる無し余は印度洋の航海以來中々に剛くなりたる積りにて最初は何程の事かあらんと威張り反りて甲板を散歩せしが遂に耐へ切れずして房中へ逃げ込みたるまゝ五日計りの間は起き出づる能はず空しく呻吟の中に日を暮したり五日目の夕方より我慢して床を離れ食卓に就きたりしが船は猶ほ顛顚して止まず食堂寥々として卓に向ふ者甚だ少し以て其風涙の尋常ならざりしを推知す可し

一日余は朝饗を了へて喫煙室に入り倫敦婦人と題せる小說を讀み居りしが傍らに幾多の航

客此處に三人、彼所に五人と類を以て集りつゝ或は骨牌を弄はして雄鳥聲中頻りに輸贏を爭ふあり或い將棋を弄して運籌經營頭を疾まして交々勝敗を競ふあり酒を命ずる者、茶を飲む者、雜談する者、喫煙する者、千差万別思ひ〳〵に一方に割據して消遣の道を求む偶まに一人あり突然余に向ふて君は日本の貴公子ある歟と問へり余驚き怪んで其故を問へば即ち云ふ下等室に二人の日本人あり思ふに君の從者あらん富貴の人に非らざるよりも遠く從者を引連れて海外萬里の游を試むる能はざる可しと余こそ其言の意外突然なるに驚き日本人は已れ一人の外他に乘組あきものをと空嘯いて取り合はざりしの餘りにシツコク尋ぬるもへ余は單身孤客の一箇大なり從者も無ければ朋友も無し滿船、余を外にして復た一人の日本人なきに非らずや何と間違へて左樣なことを云はるゝにや其意つや〳〵解し難しと一本參りたるに彼れ益〻ヤツキとなり否とよ從者と見たるは余の誤りにもせよ日本人の君の外尙ほ二名の客あるこそ僅かあり同國人の乘組居るをも知らずして反て余を間違あとゝ云はるゝこそ迂遠千萬なれ若し僞りと思はゝ請ふ試みに下等室に到り見る可し必らず吾か言の誤りあきを知らんと威丈け高にありて論する傍らより他の洋人等も口を添へてッか相違あし我れも見たり我れも知れりと異口同音に唱ふるもへ今は受太刀となりて聊か閉口の色あり

充分には信せざれども心中若しやと疑起り試みに實驗するに如かずと思ひ直ちに階を下り て下等室に到り見れば折節孰れも甲板に出で、游び戯れ居たりよく〳〵眼を注いで之を見 れは如何にも日本人の骨格容貌に相違あき者二人を見出せり扨は左樣にてありしか今まで 知らで過ぎたること不覺千萬あれ何國の何人かは知らねど海外万里の航海中に偶然同郷人 に出逢ふことの喜はしさよと走り寄りて先づ一禮を施し君と誰殿である乎と日本語にて慇 懃に問へども彼れ茫然として一言を發せず此奴失敬な男なりヤサカ唖にてもあるまじきに と少し腹立ちしまゝ一層聲を高ふして君は日本人ならぬや御姓名を承はりたしと問ひ掛け たれば彼れ尚ほ呆氣にとられたる面色にて漸くに語を發し英語にて私い貴名の言語を解す ること能はぬと答へたり扨は日本人にては無りしか大失策を爲したりと急に言葉を改め 英語にて君は何國の人ありやと問ひしに西班人にて候と答へたり此に於て余と大に其無禮 を悔い事の顚末を話して只管ら粗忽を詫びたれば彼れ亦た言を卑ふして禮を反し貴客のみ ならず是まで度々日本人と見違へられて迷惑せしことあり決して御心配には及べすと挨拶 し互に笑ふて其場を立去りたり失望と不平との二感は此時余は腦髓を刺撃して止まぬ實に 余は前きの洋人をヘコマして此腹を慰んものと取て反して已前の洋人等に向ひ君等の言は

實な盧なり彼れは日本人にてあらぬ西班人なり君等のお蔭で大恥を掻きたりとて散々愚痴 を排べ立てたれは現在日本人のお前さへ大恥を掻く位に似て居るものを我々が見違へるハ 無理ならずソヲ咎め立てする道理やあると果ては大笑にて其坐の興を添へたり全体西班人 葡萄人等の中にハ其容貌骨格日本人丸る出しと云ふが多く時々見違へて失策すること少な からず往來にて人の後ろ姿を見、太早計に吾が眞友と見違へ突然言を掛て大赤面すること あり能く似た話にて隨分間の悪るきものなり

紐育に着そる二日計り前の朝なりと覺ゆ兼ねて船中にて懇意になりし一英人が余に向ふて 云ふらく紐育着港の日も既に間近く迫り一周日餘の久しき此船を家と爲して互に睦み合ひ たる我々上等航客百五十餘人の家族ハ今まで一日二日にて散り〳〵に訣別し再會の期も測り 難き譯なれバ今夕は一同親親の宴を設けて互に名殘を惜み度く思ふなり船中の貴女紳士は 若な同意にて其讃既でに定まれり足下も不同意なくば臨席されたし尤も徒らに酒を飲み肉 を食ふのミの飲食會にては餘りに殺風景ゆへ餘興として各々得意の伎藝を現はすべき約束 にて或ヒアノを彈する貴嬢あり唱歌を謠ふ紳士あり或は滑稽の落し話を爲す人、演說を 試むる者思ひ〳〵に役割を定めて歡樂を盡す趣向なり足下は我々に取りて殃に東海萬里の

珍客なれば是非席上の演説を願ひたき了簡ありコハ拙者一己の私願ゐ非ゞも貴に乗客一同の公望なれば何分にも受引かれたゝと事をわけての示談あれども余は甚だ閉口を極めたれば御覧の如く日常の談話すら片言交りに辛ふじて其意を通ぜる位の始末なれば中々以て演説など、は思ゐもよらぬ其義は平らに御免を蒙むりたし席末ゝ列せんとは素とより拙者の希ふ所なりと挨拶して立別れたりしが其日も既でに暮れ行きて午後七時と云へる豫定の時刻となりければ續々食堂ゐ集り來りて思ひ〳〵ゝ坐を占めたり中央には一壇高く會頭の席を設け航客中ゝては最も貴顕の地を占めたる英國海軍中將某氏一同の推薦によりて會頭席に就き手短かに本會開設の主意を述べて各々充分ゝ快樂を盡されんことを希望せる旨を語り且つ豫ねて約束の如く銘々得意の藝能を試みられたし其順序姓名の如きは別紙目錄を製し置きたれば就いて一覧の勞を取られんことを希望すと説き了りて一小片紙ゝ何か印刷せしものを配布するを見れば是れなん豫ゝ今夕の技藝者演説人等の順序を定め船中備置の印刷器械にて刷行せしものにて第一某女彈琴第二某氏謠歌第三何某の演説と一々其人の姓名と其試むべき事項の種類とを掲げ示ゝたる一覧表あり余は何心なく其第一席より順で第八に至れば何ぞ思はん第八席日本紳士吉田君の短簡演説（No. 8 Short abrass. Mr K. Yoshida. Japanese Gentleman）の數字を見出さんとは扨ては今朝の英人めが余が謝絶するを

も肯かぬして目錄中に我が姓名を加へたるならん、さりとては理不盡千万の仕方なりと心中不滿に堪へざれども今更ら彼此れ爭ふ可きゝもあらず其期ゝ及ばゞ詮術あらんと先づ默して控へ居しが第一席より段々と順を逐ゐ來りて既ゝ第七席の演説も濟みたれば會頭は起て余の姓名を呼び一坐に向て吹聽せり此時余ゞ心中は閉口は譬ふるに物なけれど事既でに此ゝ至て最早やグズ〳〵躊躇すべき場合ゝ非ゞねば思ひ切て其席を起ち先づ一禮を施こしたるのち

會頭并ゝ貴女、紳士諸君、余が萬里飄零の孤客を以て圖らぬ諸君の知遇を受け今夕此の盛舉ゝ陪して諸君の名論卓説を聞くゝを得るは誠に意外の幸榮ゝして余の謹んで諸君ゝ鳴謝ぜんと欲する所あり今朝某氏は余ゝ告ぐるゝ今夕此盛筵ゝ列なる可き旨を以てし且つ勸むるゝ演説の一事を以てしたり然れども余の英語ゝ熟せずして日常寒喧の挨拶尚は且つ容易ならざるは諸君の現在親しく見聞して熟知さるゝ所なれば余は固辭して肯せざりしに今此場に臨むゝ及んで何ぞ思はん目錄表中余の姓名を見るあらんとは余の當惑實に譬ふるゝ物あき也然れども事既に此に至る徒らゝ躊躇して禮を諸君ゝ失す可きに非らず是

れ我々自ら圖らず敢て一言を發する所以なり我よして若し英、佛、何れかの語學に長せんを我が此好機を幸とし我が日本の近狀に就て諸君の聽を煩はさんと欲すると甚だ多し唯だ慨ひらくは不肖よして外國の語音よ嫺はず胸中の萬分一を漏らすと能はざるを故に我は止だ下の數語を以て此席を下る可し曰く願んで諸君の健康を祝し彼我兩國の交際益々親密よして永く各國の泰平を保持せんことを祈ると

と述べ了りて逃ぐるが如く其席よ復したるが滿場の男女は我が向ふ見ずの大胆なるよ驚きしか將た其言語の整はざりしが可笑かりしか兎よ角拍手喝采して暫しい鳴りも止まざりしが余は益々閉口して慚汗、背よ滴りたり曾て倫敦滞留中誘いれて或る英人の青年同盟會よ望み演説を强請されて同一の迷惑よ出逢ふたることありしが英語の達者よ饒舌らるゝ人は返て愉快得意よも思ふ可けれ我の如き片言父りの數語が曠れの場處に法法華經を歌いされてと實よ當惑せざるを得ず併し是れ亦た旅中の一興か

扨て豫定の如く演説もヒアノも順次滞はりなく終りを告げたれば會頭い起て鄭寧に謝辭を述べ且つ一同よ向ひ今夕の諸入費よ充てんが爲め各々應分の義金を醵出ありたき旨を告げ直ちよ給使人をして一個の丸るき塗盆を捧げ片端より出金を促がし歩行かしめたり斯くあ

る可しといかねてより覺悟し居りたることなれば懷中より紙入を取出し是れ丈けあらば澤山ありと英貨三志即ち今日の相場よして凡我九十錢計りを用意し給使の來るを待ち居しよ給使先生は段々と回はり〳〵て遂に余の前よ來りたれば卒ざ喜捨せんと手を擧げながら圖らず起て盆中を瞥見すれば何ぞ思いん一磅(即ち二十志)半磅等の英金貨は二弗五仙等の米國紙幣と錯落相交ぜり一志銀貨の如きは其影をだに見ること能はざらんとは余は餘りの著り樣あり畢竟洋人の瘦我慢よて負けぬ氣の贅澤より斯る法外の金錢を投じたるものあらん左りとては愚の至りなりと心中不滿よもあり惜くもあれどさながら日本國を代表せると云ふ可き余一人が鄙吝の事して輕蔑を受くるも殘念千萬なればと終よ思ひ切りて半磅の金貨を投與せりあとにて聞けば此夜の集金高凡そ五十五六磅(我二百七十圓餘)よ上りたと云へり此金員は皆あ當夜の入費に充てたるものよて何人も横着をせし譯にあらざるは云ふまでも無きことながら思ひも寄らぬ課税あれば貧生余の如きは一時頗るまごつきたりチ

トせし旅中一夕の談話會よも斯く著侈を極むる習慣あれば浮かと上流社會の交際仲間よは這入れぬ譯なり是れ併しながら積んで能く散じ勞して能く樂む歐人固有の氣象にて東洋風の驕奢遊逸とい同日の話に非ず右了りて就れも卓よ就き交も杯をかはして更闌くるまで笑

いさゝめき興じたり

二十日の曉よは米陸の山影、漸やく眸底よ入り來り烟靄糢糊の間、微かよ屠顔の笑めるが如きを見認めたれば船中一同喜び合ふて知るも知らぬも言葉を懸けて互よ無事着を祝し合ひ往時閻龍が始めて米の陸影を認めたるも斯くやと思へる心地して愉快の情、面ゝ溢れて見へたり僅か十日間の航海なれども十一日出帆以來到着の今日よ至るまで一日とて風恬浪靜の天氣ハなく殆終荒れ詰め搖り續きの中よ苦められたることなれば斯く一同の喜び一方ならざりしも理はりなり船漸く進んで陸影漸く浮ぶよ隨ひ宏大なる樓閣の尖頂あゞもおひ〳〵眼底に印し來るよ及び首を擧げて前面を眺むれば屹然たる巨像の高く雲を凌いで聳立せるあり是れ即ち近日佛國人民より米國へ寄贈せし有名なる自由の銅像よしてベドロース島の岬頭に建てたるものなり其高さ無慮十五丈一尺あり像の全体は女神の形ゝ擬し右手ふは巨大なる電氣燈器を捧げ一たび火を點ずれば光明萬里を輝らすと云ふ所謂る世界を照らす自由の光輝よして米人の最も得意を鳴らす所なり近時米國人民は何事よても世界第一と云へる肩書を得んことを熱望し種々工夫を凝らして宏大異常の事を企て往々天下の耳目を聳動せり此大像も即ち世界第一の一つよして假令ひ米人自ら建設せしものよハ非らざるも

既でに贈られて其有よ歸する以上は則ち米國偉觀中の一なること勿論なり此像は極近時の一設立よ係り矢野森田両兄の此地に立寄りたる頃はまだ工事最中にて両兄も目擊せざりしとあれば余は紐育滞在中是非ベドロース島ふ渡り親しく就いて其の模樣を一見せばやと心懸け居たりしが生憎く連日風雪の爲めに阻せられ遂よ造り觀ることを得ざりしは甚だ遺憾よ思ふ所なり併し涼船は問近く其前面咫尺の間を通過するかもへ細かに像身を視察することを得たり此像の事に就ては曩よ本紙の雜報中に詳記せしことありと覺もれば繁を厭ふて今ま復た追記の勞を取らず兎角するうち船は既に紐育港内よ入り其會社持ちの停繫場よ止りたれば乘客先を爭ふて船を下れり此際の雜沓喧嘩は實に非常にて余の如き一人旅には隨分煩勞を興へたり余は荷物の檢査も事あく濟み直ちに馬車を傲ふて領事館、正金銀行支店等よ抵り暫時談話の後ち去りてウエスト、ミンスター旅館よ投す時正さよ午後五時、斜陽漸く殘光を收めて暮色蒼然たるの頃なりき

前よも記せし通り余が今回の歸途ハ一日片時も迅速を要する場合もへ紐育には僅か一夜の滯留よて直ちに桑港へ向け出發の心算なりしが壓的瀾洋の航海にて非常よ苦しめられたる爲めよや身心何となく快からず加ふるよ俄かに非常の寒氣に觸れたるより忽ち邪熱よ冒さ

れ心氣頗る煩惱を感じたれば此分よりは迚も即時に發紐すること能はじ如何ハせんと思案の折柄在紐育の人々は懇ろよ余よ勸むるよ諸處游覽の事を以てし先般矢野君の一行も折角此地を過ぎりなから滞留周に滿ずして匆々に去られたるは甚だ遺憾よ思ふ所なれハ願くべ二三周間を此地よ費して商工業上の視察を兼ね彼地此處、見物せられなば啻だよ貴社の爲めに便益少からさるのみならず我よも亦た大ゐ滿足そる所なり紐育よも觀察游覽するに足るもの多し歐洲を見たれべ米國いどふでもよしと云はぬ計りよ冷視さるゝは頗る不平よ存する所なりと諷刺觀告取り交せて頻りに滞遊を勸むる言の最と親切にして且つ理りに聞もれば彼此の事情を慮かり終に心を決して此地よ越年と覺悟を定め其趣を本社へ通して暫く御興を据ゑること、はなりぬ因て紐育滞留中よ目擊聞せし事柄のうち記するよ足る可きもの數項を左よ掲ぐ讀者若し西洋風俗記中の一部として一讀せば則ち可あり

下宿屋

既よ十日以上の滞遊と決心したる以上はペン〳〵とホテルに逗留して毎日代枚四ドル、五弗の旅籠料を拋ふは不經濟、不得策の甚しき譯なれば早速相當の下宿屋よ投ずること肝要あれと人にも頼み自身よも奔走して探し歩行きたれど何分二周間や三周間の短き下宿は面

倒あるゆへにや言を左右よ托して承諾せず甚だ當惑を極めたりしが幸に一軒あり是れよで紐へ來日本人が止宿して主婦は能く日本人の性質習慣をも承知し居る由あればコハ屈竟なりと早速に面談を試みたれば快く承諾して何時よても差支あしとの返答ゆゑ即日（到着の三日目）ホテルを引上げ直よ此家へ轉宿せり爾來此下宿の体裁と各所に散居そる友人の止宿せる下宿屋の摸樣とを對照し且つ永く此地に滞留せる人々に就いて聞合せたる處々よ據りて粗ぼ當府下宿屋の狀況を窺知するを得たり大体の上より云へべ巴里倫敦と大差あきよ似たれど細かよ穿てゞ隨分相違の廉なきにもあらず尤も下宿よも樣々ありて廉なるは一周間四五ドルより不廉なるは三四十弗にも及を以て其取扱の摸樣、家内の体裁等よ至ても夫れ相應の區別段階ありて一概よ論ず可らざるは勿論のことながら概して云ば、諸物貨の不廉なると共よ下宿料も巴里、倫敦等よりは遙かよ不廉あり朝夕の食物も直段よりて相違はあれど矢張り概して粗惡あるよ似たり且つ紐育に到着以來毎よ余をして困却を感せしめたるものはホテルにても下宿屋よても靴を磨き呉れぬ一事あり巴里、倫敦などよては如何ある安泊り安下宿よても客人の靴は毎朝必らず奇麗よ磨ぐを以て例とせり余は最初矢張り耳積りあて寢よ就く前、靴を戸外よ直し置きしこと屢々あるも朝起て之を見れば依然たる

胥の汚れ靴もへ詮方なく出で、街頭の靴磨きよ掃除せしめざるを得ず毎朝チャンと磨いて置いて呉れると一々自身が街頭ょ出で、靴磨きょ磨かせるとは其便不便の差一方ならぬ隙分五月繩き次第なれば大抵ょ我慢して汚れたまゝに穿ち勝ちよなるが人情ゆゑ往來の男女が爪先を見れば何れも汚靴を穿ちて行き通へり之を巴里、倫敦等の男女が鳥の羽を欺き漆の色に優れる靴を着けて往來するょ比すれば大なる相違なりと云ふべし

佛、曼、英等歐洲の國ょ〻て〻一般人民常ょ酒を嗜み朝餐を除くの外ょ大抵卓上ょビール、クラレット、セリー等諸酒の上らざるは無し殊ょ麥酒の如きは價廉にして量多く何人の口ょも容易く上ぼり得可きを以て人ょ毎ねに水の代りとして之を用ゆる程あり故ょ酒ょ甚だ自由ょて全くの下戸連はイザ知らぬ少しく酒を嗜める者に取りてょ誠ょ愉快便利を極むる譯なり余は元來、百川を吸ふの豪にょ非らざるも亦た三蕉ょ耐へざるの量ょも非らぬ何れと云はゝ先づ上戸籍ょ列する方もへ斯く自在に斯く廉價に瓶を傾け得ふるゝは何よりの都合ょて下宿ょ居てもホテルょ泊りても友人を訪ふても散歩をしても渴を覺もれば即ち此靈水で喉を潤はすを常とせり然るに紐育ょ着以來、ホテル及び割烹店等の有樣を見れば男女ょ限らぬ杯を手ょする者甚だ稀れにして皆お茶、珈琲を用ひ居れりホテル、割烹店すら既ゆ

斯の如くなれば況して一般下宿屋の如きょ尙は更ふ酒の緣薄く水と茶、と珈琲ょて持ち切りの有樣なれば余ょ甚だ寂寥を感じたり左りとて米人ょ限り酒を嗜まぬと云ふょは非らず年々米國にて製造する酒類及び歐洲大陸各地より輸入する數量の統計を見れば實ょ驚く可き高ょ上ぼれるのみならぬ各町到る所、居酒屋を見るとあき程なるょ何故斯く一方には酒嫌ひの風習あるあや頗る解し難き理窟のやうなれと少しく熟思すれば直ちょ其原因を發見す可し元來歐米人ょ一体に表面の体裁を飾り上部の行儀を嚴重にすること東洋人の比ょ非らず屋漏にゝ隨分愧つ可き醜態あるも外部ょは燦然たる錦玉の面を覆ふて品行端正なる士君子の品格を失はぬことょ注意するが中ょ取り分け米人ょ此風、盛んょして体裁を飾ると一層甚しければ成る可き丈け人前を取繕ふ傾あり現ょ余が滯在中或る雜誌ょ米國の婦人中喫烟を好む者多く堂々たる貴婦淑女ょして密かょ一室に閉ぢ籠りスパ〳〵烟を吹かしシガレットを吸ふもの甚だ少からざる旨を記載するを見たり飲酒も之と同樣ょて米國ょて之從來禁酒、節酒等の論を唱ふるもの多く酒を嗜む者ょ常ょ社會の擯斥を蒙ひり聖典の教ょ戻る者として蔑如さるゝ風儀あるゆへ婦女子は云ふまでもなく男子たりとも公然、杯を傾け酒樓ょ入る者少なく渴を忍んで殊勝氣ょ人前を取繕ふが故ょ斯く歐洲に比すれは一般

ゝ酒の勢力薄くして茶、水の跋扈を極むる所以あり然れども一たび其裏面を窺ひ去れゝ戸棚の片隅ゝは始終、酒を絶さずブランデーはウイスキーと並び立ち葡萄酒ゝ利休酒ゝ隣り坐しビーアの口を揃へて門番するあればポルト、ワインの頭を排らべて行列するあり一室人無く寂靜かなる時ゝ當りては家族交も杯を引ひて咽を鳴らす素とより男女の論あき也是れ元と一般の風俗ゝして特ゝ下宿屋ゝ限りし譯ゝゝあらざれど余がいつも不平を感じたるは下宿屋の食事時ゝ在りたるをもて序でながらは此條下ゝ附記せり是れ亦た米國風俗の歐洲諸國ゝ異なるもの、一あり

余が止宿し下宿屋には日本人三人獨逸人一人米人一人女學校の女教師一人と主婦及び娘とを合せ凡そ七八人の男女相混じて食卓に就く事あり主婦ゝ六十有餘の老婆ゝて隨分小六かしき婆樣なる上同宿の洋人ゝ何れも上等社會の人物あらねば其擧止言語も素より士君子、貴女たるの品格ある者に非らぜ余等ゝ對する擧動の折節不敬に流るゝことあるより余ゝ勿論他の人々も時々不快ゝ感じて互ゝ其無禮を憤り合ひ居る折柄忽ち一珍事出來せり或る日の朝いつもの如く食事を報ぜる號鐘響さしもへ余は匆皇階を下り將さに食堂に入らんと欲する際、丁度新聞紙の配達ゝ會ふたれば其まゝ手ゝ携へて食堂ゝ入れり食事の間たゝゝゝ

一坐の男女絶へず言葉を交ゝして雜談嬉笑するゝ彼地一般の風俗ゝて之れを以て交際上世辭愛嬌の一つと爲せることゆへ彼等ゝ色々ゝ話端を啓いて彼れ一句此一句面白ろそうゝ談笑し居れど余は少しも面白味を感ぜぜ能くクダラヌ事を繰返して話の種とするもの哉と心ゝ冷笑しつゝ退屈のあまり攪へ來りし新紙を披いて一再讀過せり扨て食事も了りて余ゝ少しく用のあるまゝゝお先へ失禮と會釋して自分の部屋へ入り來りしが間もなく他の日本人も上り來りて余が室ゝ集りて云ふやふ今ゝ君ゝ食堂を去りたる後、洋人等頻りゝ君が食事中ゝ新聞を讀みしは不敬の擧動なりとて非難し居たり些細の事ゝまで喙を容れて彼れ此れと評論するゝ彼等の常癖あれば御參考までゝ申上置くとの心注け故サレバなり余も其失禮を知らざるには非らず然れども彼等が平生我々に對する言語動作は果して禮儀を失し居らざる乎彼等の擧動ゝ比すれば新聞位ゝ何でもあし已れ先づ修りて而後人を責むるこそ可けれ已れゝ始終野鄙賤陋の言語擧動を以て人ゝ對し乍ら嗚呼ゲましく他人の小事を咎め立てずるこそ心得ぬ畢竟、日本人と偽りても徼言あり其義あらば此方にも心得あり御心添の段は千万辱しと答へ置き其夜晩餐の卓ゝ向ひし時余は突然席を起ち威儀を正して恭しく滿堂ゝ向ひ抽者ゝ此度初めて米國へ參りし者あり英佛諸國ゝは春來暫く滯遊して祖は其地の風

俗習慣を承知致したれど當國の事情は茲だ暗し定めて食事中より諸君より向て問々失禮の言語擧動ある可し然れども是れ元と有心故造の惡意より出づるに非らず全く事情を知らざるより坐するの罪なれば其邊は枉げて海容ありたく且つ若し拙者の言語擧動よりして不敬より遂る廉あらば事、大小となく公けより訓戒忠告されんことを望む必らず謹で其教より從ふ可き但だ後へより讒し密かより誹るが如きより至ては啻だより拙者の取らざ所なるのみならぞ亦た堂々たる紳士貴女の品格よも關する譯と存するなりと述べ了て席より就きたれば一同呆氣に取られたる面色より座中茫だしらけて見へたりしが此より後は流石に氣耻しくや思ひけん彼等の待遇全く一變し交も機嫌を取りて俄かより敬禮の意を表するより至りしも可笑し何分黑髮黃顏の東洋人と見れば直ちより未開の人民なりと賤視し萬事に輕侮の痕を顯はすわ海外を旅せし者の等しく熟知する所にして此方に温順にすればする程、蔑視を生するは彼地中等以下人民の免かれ難き所あれば旅中及び下宿屋などよては温順中より威嚴を保ち折節と無遠慮に攻擊を試むるも宜しと存す

高架鐵道

米國は近時草創の新興國よして百事、歐洲諸國に如く秩序正しく整頓とせざれども廣茫たる天然の沃土と燦爛たる自由の薰風とは忽ち其國の富强を促かし建國僅かに百有餘年の幼齡よして既より世界を睥睨し眼中殆んど人あき勢なれば百般の事業も常に壯大新奇を競ひ諸種の發明工夫日より月に隆起すると天下の共に驚嘆して措かざる所なり左れば歐洲諸國より旅てと未だ曾て聞見し得ざる所のものよして米國特りと之れあるの事物少からず今ま此に記述せんと欲する高架鐵道の如きも亦た其一より居るものなり啻たより歐洲より其類あきのみあらぞ米國よても紐育府を除くの外未だ其設立を見ずと云へり此高架鐵道と倫敦の地下鐵道とと併び稱して世界の一大奇工事とも云ふべき歟彼れと地底を潛るの鼠の如く此れと天上を飛ふの鵬より似たり其趣い異なりと雖も文明の奇工たるより至てと則ち一也思ふより今後文化益々進み厚生利用の道愈より開くるより至らば草澤山林、用ひ盡して車を行るの餘地なく終より到る所、煤炭、空中より燃へ車轍、地底より蹠くより至るや必せり然らば則ち今日の奇とし妙とする所ろも幾ばくならぞして不奇不妙の觀を爲すより至らん嗚呼文明の流潮も亦た盛ありと云ふ可し今ま余と讀者の爲めより此鐵道の摸樣一斑を叙述す可し鐵道流行の今日よは適當の話柄あらん

凡そ新たに一事業を起さんとするより方りてい其事の目新らしきと異常あるとに伴り往々世

俗の非難を被むり種々の困難障碍に出逢ふことゝ古今一轍の常態あるが此高架鐵道の如きも其草創の始に當りては攻撃百出、排斥の聲四もに起りて容易に賛成さる可くも見へざりしが首唱者は毫も屈撓の色なく百方經營して終に土工に着手せしが爾來實際の運轉を試むるに及んで之曾だに一人の不字を唱ふる者なきのみならず皆な翕然として賛成の意を表し前者の排斥の聲と忽ち變じて稱賛の音と化するに至れり是を以て創設以來僅々の年處を經るに過ぎざれども其之が爲めに紐育府民の幸福利便を進め紐育府内の繁華隆盛を加へたること甚だ著大なるものあり實利の著大なる斯くの如きあるに止らず其空中に横架せる彩虹と天上を飛行する大鵬とゝ賞に紐育府の壯觀を加ふるものとして流石に文明國の大都たるに負かざる心地せらるゝ扨て此の高架鐵道と目今四線路に分派して普く全府に貫通し停車場と短きと二三丁長きも十丁内外の處に排置しあるを以て甚だ乘り下りに便あり停車場と道の兩側に設けありて一と上り車一と下り車の停車場とす構造と頗る簡易質素を旨とし紹へて華美に流れざれども待合室喫烟室等凡て必要の事物に欠ぐ所なきを以て決して不便を感ぜず乘客の乘り下り亦た甚だ簡易靜粛にして毫も喧囂雜沓の憂あし乘客と先づ切手賣捌所に於て切手を買ひ之を傍らに備へある硝子張りの小さき箱の中へ投し去るなり此箱には

一人の番人附添ひ居て乘客の切手を投入するを監視し居れり乘車賃と遠近の別あく通じて一人五錢を定則とす故に切手の文面、恰好色合皆あ一樣にして區別あるあく乘客と一たびの加きも其車賃と遠近を論せざ一人五錢の定めあれば馬車よりと遠車を撰ぶ人多く其遠方に往來する人は云ふまでもあくチョト近處へ用足しに出るにも此遠車に乘りて往來するも乘客と常に込み合ひ押し合ひ始終車内に立ち詰めにさる、事珍らしからず雨降りなどには隨分困却すること多し列車の駛行せる鐵路の高さは今ま慥かに覺へ居らざれども大抵通常家屋の二階三階の間を平行する位の所に在り思ふに少なくとも六七間はある可く思いる鐵路の下と馬車も走り荷車も挽き人も歩行き居る尋常の往來あり鐵路と近年の創設に係り家屋稠密の間を縱横に縫ふて四方に通ずるものなるが故に迂回屈曲の場處甚だ多く蜿蜒として長蛇の谿谷を行くに似たり一屈一曲頗る急にして一見すれば實に危險なるが如くあれども此鐵路の構造と至極堅固にして車軌と車軌との間に横架せし鐵棒の上に少し突出した る堅材あゞて車道を挾み居れば萬一車軸の破損することあるも列車と此堅材に支持せられ決して顚墜の危險あるなし其他車の停車場に停まる工合と云ひ車掌の乘客に對する鑑賞と

云ひ共に都合よく整ひ居て一點の間然すべきなし要するに人手を省き時間を節して金儲けに勉強する米人の性質は此鐵道の仕組の上にも現れて頗母しくもあり羨しくもありと申すの外なし

新聞社の景況

新聞紙と文明の利器として社會改進の指南車たり政治法律、之れに依りて改良し學問究理之れを以て誘發す其他貿易殖産に道德風俗に皆な新聞紙の力を藉りて鼓舞奬勵せさるに無し是れ余が新聞記者たるの故を以て漫々手前味噌の自畫自賛論を唱ふる譯には非らず實に世界の公論として復た一人の之が異議を挾む者あるを聞かず左れば凡そ一國文明進歩の程度如何を知らんと欲せば須らく先づ其國發行の新聞紙數と其の發賣高とを檢すへしと云へる金言と古來歐米學者の間に行われて其紙數及び賣れ高と恰かも文明の進度を測量するの度衡とあれり從來日本より海外に旅せし人々の中に隨分心を彼國新聞紙の狀勢に留めて細かに觀察を下たしたる者も多かるべきが矢野森田兩兄及び余の如きは所謂る商賣柄の當局者にして其身現に新聞の業務に從事する者あれば其注意觀察の綿密なることい元より他の無縁局外の人が他事を觀察するの傍ら匆々一斑を觀察せしものとは日を同ふして語る

可きに非らざる或は屢々彼地新聞記者に面會し或は時々編輯印刷の模樣を目擊する等我々の事業に取りて必要の實地調査と可なりに行屆き居る積り也然れども今は巨細に實際見聞の條を列擧して一々之を說明せんことは事頗る煩冗に失するの恐れあるを以て今は其詳に及ばず此に唯だ彼國一般新聞社會の狀況に就いて其有樣の概畧を記するに止めんと欲するのみ

今は若し歐米諸國の新聞紙が如何なる權勢威力を有し如何に社會に普及せる乎を明示せば冷淡なる日本の讀者は啻に吾言を信せさるのみならざる徒らに一片皇張誇大の言として顧みざるに至らん新聞遞送の爲めに毎朝各地に向ふて特に別仕立の汽車を差立て數輛の列車悉く各種新聞紙を以て充たすと云はゞ世人い必らず驚き異んでマサカに左程まではと疑ふあふんが是れ僞り飾りなき正直の話なり又た市内各賣捌所へ新聞配布の爲め各社より特別に仕立たる馬車の絡繹として馳せ違ふなどゝは思ひも寄らぬとなるべし、日夜五六分置きに東西南北に飛行する各汽車中には上中下等の差別なく老人も婦人も貴きも賤きも殆んど一人の新聞紙を手にせざるい無く言ひ合せたやふに歟讀するも奇なり日本にて偶に讀書好きの人が寸陰を惜んで汽車人力車等の中にて新聞若くは書籍を繙くを見て讀書の時間位は

家に在りて充分あるべきに左りとて生意氣な男なり驕さ入た外餘家なりと惡口しあから已れと徒た忙然として無聊に苦みつゝ不行儀よりも欠伸の中に可惜ふ千金の光陰を空過するを得意顔なる社會よ生息をる人々よ見せしめなば必らず喫驚仰天して歐米人民は悉く生意氣千万の外飾家ありと思ふべし時是れ黄金の確言を守りて四六時中營々として職務よ勉強し僅かよ寸陰を偷んで智識聞見を廣くし一身一家の富を培養ま て國家富強の果を結ばんと心懸る人民が果して生意氣千万ならば余て謂て日本人民の悉く相率ひて速かに生意氣の仲間よ加はらんことを希望して止まざるものあり

新聞紙の勢力既よ此の如く強大お新聞紙の賣れ高彼れの如く夥多なる割合よ記者の權勢亦た非常よして古來英國よ男子生れて大宰相とあらずんば宜しくガイムス新聞記者と爲るべしと云へる諺のあるを見ては其勢力の強盛ある程を推知すべし然れども其強盛も徒らよ強盛あるよはあらぬ記者の人品學識と云ひ議論の精確公明と云ひ共に強盛なるの實ありて而ま て強盛なるあり其筆鋒の鋭利あるは百萬の甲兵あも過ぐべく其議論の公明なるは日月と光を爭ふに足るべし但た時よ黨派心を挿んで言偏僻に陷るの弊あるを憾みと爲す耳試みよ著名の新聞の主筆記者よ就て親しく其面容よ接し其議論を聽けば實に堂々たる一代の政治

家よして一國の大臣宰相と爲すとも毫も恥かしらざる人物あり米國大統領撰擧の際往々其候補者の新聞記者中より現はれ出せゝ鹿を中原よ爭ふに至るも亦た決して偶然に非らざるなり

余は紐育滯留中是非同地の重立ちたる新聞社を訪問し實際事業の有樣をも一見し且つは其主任記者よ面會して談論を試みたしと考へ居りしが何分突然よ訪問するも如何あらんと猶躊躇お居たるに幸ひ起立工商會社紐育支店詰の支配人執行弘道氏は久しく同地に在りて學者社會の交際を廣く各新聞記者ハ大抵懇意あれば余が爲めに紹介の勞を取る可しとのことも早速同氏よ紹介を依賴し同道よてトリビューン、ヘラルド、メールなど云へる二三の著名なる新聞社よ抵り其主筆記者よ面會して種々の談話を爲し且つ編輯局の摸樣は更らあり印刷の樣子をも一通り實見し心中よ發明せし利益も少あからざりし執行氏の紹介は啻たに余をして右記者と面晤の便を得せしめたるのみよ止らぬ同氏が精熟練磨せる通辯は余が未熟なる舌頭を補ふて爽快明白よ暗談するを得せしめたるこ誠に余よ取りて最上の賜ものなりしと云ふべし右の新聞記者を訪問せしハ丁度正午頃よ去て實飯時にも迫り居たれば余は記者お請ふて午餐に同伴せんことを望み相携へて近傍の料理屋アストン樓と云へるよ抵れて食

事の間ゑは互ひゑ種々の問答を爲し且つ飲み且つ談じて轉た情眞なるを愛へたゞ歐洲の形勢は何如、英國内閣の近狀は何如、米國現政府の處置は何如など云へる政治上の談柄は第一に彼我の間ゑ起れる問題ゑして遂には進んで各國政治法律の得失利弊ゑ及べるは自然の順序にして彼の記者等は余ゑ向ふて頻りゑ是等の問題を設け此方の胸中を窺ひ見んと欲するの傍ら若ち政治上の議論ゑ關して疑問もあらは遠慮なく問ひ試ろみふるべし蓋へ居る丈けの臭見は殺臓おく披陳すべしと云ゐり然れども余は輕卒ゑ彼の記者等と辨論を交へて政治上の問題を論議するを欲せず殊ゑ彼等が而會早々斯る話の緒口を開けるも訝しければ余は只た其厚情を謝したるのみゑして敢て政治上の意見を述べず且つ云く先生等の斯く懇ろなる言を與へらるゝは誠に拙者の感佩ゑ堪へざる所にして深く鳴謝する所なり元來拙者が政治上の問題に就て抱ける所の疑義と平生蘊積する所の臭見とを敢て少きゑ非らず今ま英邁達識なる先生等ゑ就て胸中の宿疑を散し平昔の持論を吐露して高明の教示を得んことを拙者の最も希望する所ゑして偏ゑ今日の好機を失するを恐ると雖も政治の問題は事頗る洪大ゑ亦て一朝一夕の能く盡すべき所ゑ非らず然るゑ拙者の滯遊や其期既ゑ限りありて心身共ゑ忙しく加ふるゑ先生等の業務亦た非常ゑ繁劇ゑして徒ふゑ海外一孤客の爲めゑ割愛

す可きの時間ゑ乏しからん旁々拙者は今日敢て言の政論ゑ渉るを欲せず只た其希ふ所の要點は貴社實際の事務如何を觀察するの策を得んと欲するゑ在り云々と是ゑ於て巽れも話頭を一轉し新聞事業上の實際問題に移れり因て余は先づ編輯の手續き探訪通信の仕組より配達賣捌の方法ゑ至るまで凡て我々の事業ゑ取りて必要と思考せる嚴々を質問したるに夫れ〳〵仔細ゑ說示せり此上は其編輯印刷會計等の諸局を一覽せんと紐育にて最とも著大なるトリビューン社の樓上に登り先づ編輯局に入り順次各局を巡見せゞ器械場は何れの社も地下の最下層ゑ設けありて絶さず燈火を點じ置けり器械場の主任者は記者の命ゑよりて余が爲めに特ゑ諸器械を運轉して叮嚀なる說明を與へゐり余ゞ此社の摸樣を實見して心ゑ識得したる利益の點ハ素より一二の少きゑ止らゞ大ゑ余をして實驗の學問を增さゝめたり要する編輯と云ひ會計と云ひ又た器械と云ひ諸事簡便質素を旨とゝ人々勤勉して各自負擔の事業ゑ勵むの一事と萬事の利得を促す源泉ゑして畢竟米國富强の基因する所も亦た一個人が孜々事業ゑ勉勵なるの致す所ゑ外ならゞ門外より仰で之を望めば巍峨たる傑閣雲ゑ聳へ玉壁燦爛として目を驚かすと雖も一たび室ゑ入りて館内の實景を窺ひ去れは各室籌々として人語おく二三の役員机ゑ對して一心不乱に働くゆるを見るのみ毎朝幾十萬と云へる紙數

を發見せる世界の大新聞社ありとは思ひも寄らぬ有樣なり日本の地方新聞よりも其雜沓と人數とは遠く其上に出づべしと思ふる是れ皆お時を惜て勉强すると人手を省ひて器械を利用するとの結果あり試みよ一二の例を擧ぐれば日本よりて一二萬の新聞紙を印刷するよりも大抵五時間より十時間を要するがゆへよ編輯の締め切りも紙數が多ければ多き丈けよ時間を早く切り上げざる可らぬ故よ夜間少し遲く得たる重要の報道ハ其日の新紙よ登載することを能ふを隨ふて之よ伴ふの不利不便は職工の手數工錢と會計の繁雜とよ及ぼし冥々の得失少からぬ然るに歐米各國の新聞社よ使用せる印刷器械ハ何れも宏大なる蒸滊仕掛けよして一時間少きも一二萬多きは四五萬を刷行そ可きものあれば數十萬の紙數も十時間を出でぬして刷り立て得可し其便否果して如何ぞや電報局よ抵り見れば各國各地より電報四方より集り來りて函中よ落ち降ると恰のも雨の如く又た縷の如し彼地の新聞社よては日本の如く電報を電信局より配達し來るよ非らぬ皆お電信局と特約して私設電信支線を室内よ通じ置き謄所の通信者より飛來たる電報ハ皆お集りて此よ入るなり其盛あること蓋くよ堪へたり編輯局を巡見せる時其一隅よ大なる書物箱やふのものを立て置き其中を數つよも仕切りて其上よ一々エ、ビ、シと横文字の符帳を付けさるものあり餘り見慣れざるものもへ何如ある用よ供ふる乎と問しふ是ハ内外國の有名なる人々の傳を書綴たるものよて學者政治家は云も更らなり苟くも一技一能を以て世よ顯はれたるものハ其生前より豫じめ其人の履歴出所を取調べ畧傳の文章よ綴り置き其姓氏の頭字よ隨ふて此符帳の中よ入れ置くなり若し其人死去する時ハ直ちに之を函中よ拔いて原稿よ付し翌日の新聞よ載せるなりと其用意實よ至れりと云ふ可し前年岩崎彌太郎氏の死去せし電報の倫敦よ達するや翌日のタイムス新聞ハ直ちよ同氏の畧傳を摘載して我々よ一驚を喫せしめたることありしが今よして思ひ合すれば成るほど左もありしならんと合點せり是等ハ別段手數の懸る事よもあらねば日本の新聞記者よても平生心懸け置き度と、存し歸朝後我社の諸兄よも話し合へり其外書籍室、庶務局等巡見の際よ會得したる事柄よして摘記す可き廉少きよ非ねど煩を厭ふて此よ省けり

グラント將軍の墓

南北戰爭以來其名を天下よ轟かしたる米國の一豪傑よして殊よ我が日本よは最とも親愛の友誼を表されたる名士グラント將軍は世人も知る如く一昨千八百八十五年の夏を以て溢焉逝去せり當時米國人民の痛哭は云ふも更らなり我が日本の人民も亦た擧て一朝此の敵愛を可き英雄を失ふたるを悲悼するよ至れり左れば恩を思ひ德を慕ふの米國人民ハ爾來頻りよ

奔走して資金を集め或は墓碑を建て或は紀念標を設けんと其計畫一方ならぬ亦た以て將軍生前の功德と米民義俠の精神とを見るに足る可し余の將軍を敬慕するや久し不幸にして生前一たび儀容を仰ぐの機を得ぬ空しく幽冥を隔て、不遇を訴ふるの人となれり憾み何ぞ云ふ可けん今や圖らずも將軍墓梓の地を過ぎりて轉た感懷に堪へざるものあり責めて其墳墓に詣て、英魂に接せんものをと思ひ立ち友人駒田氏に案内を頼み第十四街の停車場より例の高架鐵道に駕して行くこと里餘七十五街の停車場に下り左曲して復た行く十數丁にして達せり墓は沿河苑（リバー、サイド、パーク、）の最高處クラレモントと稱ふる岬頭に在り前は有名あるハドソン河の洪流を隔て、遙かに大陸の風色に對し後へは一帶の曠野を控へて近く紐育の煙火を望む樹木扶疎、岡巒起伏、蕭條たる景況忽ち塵襟を洗ふて仙境に入るの想あり漸く墓前に近いて前面を仰視すれば十三星の國旗は翻飜として寒風に飄り參詣の老弱より捧げたる朶花と雲を作して柵前に堆し門外には正服凜々しく短銃を脇挾んで非常を警戒むる警護の査官兩名あり余等は即ち就いて恭しく禮を施し將軍の墓に謁せんことを請ふ、警吏は直ちに諾して之を誘き墓前に抵る余は脱帽跪坐默然たること良久し墓の全体は其規模意外に大あらず間口二間奥行三四間に過ぎざる圓棟平矮の赤練瓦造りにして思ふたよりは無造作なり併しながら是れ畢竟其墳墓を丸出しに露出したるに因るものにて往く〳〵宏大の靈廟を建て、之を覆ふに至らば必らず壯觀目を驚かすに至る可し此日は朝來雪催ひにて彤雲厚く掩ひ朔風凜烈として寒威堪へ難きにも拘はらず遠近より馬に鞭ち車を驅りて詣で來れる貴賤男女少ゝらぬ門前爲に雜沓す嗚呼丈夫生れて此に至る死すと雖も何をか憾まん將軍の英魂亦地下に瞑するに足らん歟猶は墓前を徘徊すること多時ハドソン河畔の風光を弄しつゝ、漫歩堤に沿ふて紐育の寓に歸しは斜陽漸く殘光を收て暮色蒼然たるの頃なりき

土耳其風の湯、露西亞流の湯

日本人か海外に行て不便不自由を感ぜることは種々樣々あるが中に洗湯の如きは着當坐の二三ヶ月間尤も不自由不愈快に覺ゆるもの、第一なり一体西洋人は入湯の度數甚だ少く多きも一ヶ月兩三回少きは半年一年に一度位に止まる習慣にて餘りに度び〳〵湯に入る者は却て其身体が不潔ある故ならんなど、誹謗さるゝ次第、日本とは全く反對の風俗なれば平生毎日のやふに入浴し來りし我々日本人い實に心持惡るくして堪へ難き思あり左りとて日本に居る心持にて度々入湯せんとせば啻だに彼地一般の習俗に戻れる奇物視さるゝのみならず一度の湯錢も三十錢四十錢に上るを以て貧生には隨分迷惑の至りとなり旁々不自由不

愈快を忍びつゝ一月二月と送るうちは習慣性を爲して終には何とも思はぬやふになるが、常なり斯く西洋人は平生入湯の度數少なく止た毎朝全身を拭ふて僅かに其清潔を保つ次第なれば偶ま浴する時ハ日本人の如く數分時間よして飛出すが如き早風呂主義を取らぞ大抵一時間前後の長湯を爲して細かく奇麗に全身を掃除し積れる汚垢を澣ひ去るを例とす是れ歐米各地一般の風習あり扨て西洋人が平素用もる普通の風呂は今ま余が說明を爲さずとも世人の熟知する所なれば此れは申さず只た彼地よて流行せる土耳其流露西亞風の風呂に至ては頗ふる奇よして未た親しく海外よ遊歷せざる人々よは隨分珍らしき心地せらるゝ方あらんと存ぞれば此よ其大畧を述ぶべし

土耳其風と云ひ露西亞流と云ひ共よ其本國よ行はるゝ風を移し來て歐米の各都市ゟ構造し以て浴客よ供するものあれば一たび此湯よ入らば粗ぼ其國風の一部をも推察することを得可し尤も此の土耳其湯露西亞湯は倫敦よても紐育にても普通の洗湯の如く到る所左樣に澤山の設けある譯よ非らす府中の要所〳〵よポツ〳〵見受くる位よ止まるなり例へば東京よて伊香保、磯部、有馬等諸所の溫泉を取寄せ彼地此地に一二軒の浴場を見ると同樣なり土耳其湯露西亞湯共よ蒸し風呂よして室內の鹽梅浴客の取扱等も粗ぼ相似たれべ一緒めよ其景

況を記述す可し只だ其異ある所は土耳其風は室內よ巨大ある石を置き之を烈火の如く燒立て、其溫熱を全室內よ充布するの仕掛なると露西亞風は之と違ひ室下よ蒸氣の裝置ありて酷烈なる蒸發氣の內室よ充滿して溫熱を保つの仕組なるとの差あるのみ此外よは別段之と云ふ程の異同を見ず扨て浴客は先づ入口の受附よ至りて湯錢を拂て手形を受取り時計懷中等大切の品物は此處に預け置て切符を取り置くあり尤も度々往く人は日本の如く一度に夥多の湯札を買置くもあり湯錢ハ日本銀貨にして大抵三四十錢より一圓四五十錢まで場所よより家よよりて色々差別あり一樣あらぞ湯錢拂濟の上奥よ遣入れば已前の手形受取所ありて之に渡し夫れより靴脫ぎ部屋ゟ至りて靴を脫けて監督の小僧ありて之を受取り傍はらの靴置棚よ載せて何番々々と記したる合札を與るゝこと丁度日本の寄席あどゟて下足札を渡すと同じ趣向あり脫靴室を出づれば部屋番の若者客を導いて衣裝室に抵る此よて衣服を脫去し西洋手拭の長く廣きものを腰よ纏ひ湯場よ赴くあり湯室の溫度は大抵二三等に區別しあり第一は七八十度第二は九十度前後第三は百度內外と云ふが如く漸次に熱を加ふ元來西洋よては皮膚を露出すること最も失禮にて婦人の襟服を着けたる時の外は男女共よ身躰を包み回はして毫も膚を現さす一般洗湯の如きも一人一部屋取り切りにして衣服の着脫きも

其一室内に於てする位に嚴重あれど此土耳其湯、露西亞湯に限りて男女の區別こそあれ多人數入り込みにて湯治の間は何れの部屋〳〵も皆赤裸にして戒れ人共に赤條々一條を掛けずアチラコチラに往來するあり日本の如く鉛粉平氣にて皮膚を露し人に對して恬然怪さざる風俗より見れば何でもなきことなれど行儀正しき西洋にては隨分奇妙の思を爲すあり殊に日本人は全体皮膚の色茶黑くして加何に色白と稱する人にても白皙人種の中に則ては黑白非常に目立ちて見へ骨格の小弱と云ひ膚の汚黑と云ひ隨分氣の引ける程の區別あり平生は西洋人を平呑して何に彼等がと強情に驕張り居る余の如き頑固生も此れには毎度閉口してうら耻かしき心地せり

西洋風俗記　終

明治十九年十二月七日出版御届
明治二十年五　月　出　版

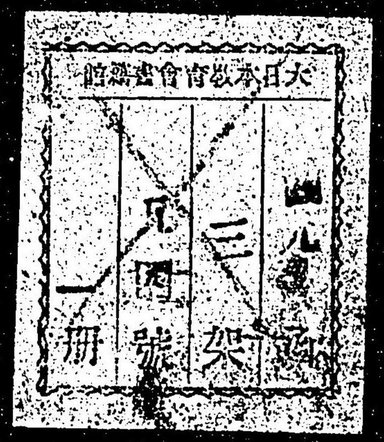
定價三圓

編輯兼出版人　兵庫縣平民　赤松市太郎
大阪府東區今橋二丁目廿六番地

發　兌　所　大阪心齋橋北詰四番地　駿々堂本店

同　神戸多門通二丁目　同　出張店

26
7
276



027345-000-7

特28-821

西洋風俗記

西滸生／著

M20

ADJ-0100